

平成28年度

本宮市教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書
(平成27年度事業)

本宮市教育委員会

目次

I	点検・評価制度の概要	
1	目的	1
2	対象事業	1
3	実施方法	1
4	学識経験者の知見の活用	2
II	平成27年度評価対象事業	3
III	学識経験者の意見	4～11
IV	点検・評価の結果	12
1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	
(1)	人とのかかわりを通した豊かな心の育成	
①	保育所事業	13
②	幼稚園管理運営事業	14～15
③	幼稚園読書活動推進事業	16
④	ブックスタート事業	17
(2)	体を動かす遊びを通した健やかな体の育成	
①	保育所入所児健康づくり推進事業	18～19
②	幼稚園児健康づくり推進事業	20～21
(3)	一人一人の育ちにあった教育の推進	
①	障がい児保育事業（保育所）	22
(4)	ニーズに応じた地域子育て支援の充実	
①	一時保育事業（保育所）	23
②	延長保育事業（保育所）	24
③	預かり保育事業（幼稚園）	25
④	子育て支援センター事業	26
2	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	
(1)	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	
①	キャリア教育推進事業	27
②	体験活動促進事業	28
③	小学校読書活動推進事業	29～30
④	中学校読書活動推進事業	31
⑤	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	32
⑥	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	33
⑦	スクールソーシャルワーカー設置事業	34～35
⑧	学校復帰支援事業	36
(2)	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成	
①	学力向上対策事業	37～38
(3)	心身の健全な成長を目指す教育の推進	
①	小学校児童健康づくり推進事業	39～40
②	中学校生徒健康づくり推進事業	41
(4)	子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実	
①	特別支援教育支援員配置事業	42
(5)	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進	
①	小中学校学校教育事業等助成事業	43～44
②	通園通学支援事業	45

3	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援	
	(1) 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	
	① 成人教育事業	46～47
	② 女性教育事業	48
	③ 高齢者教育事業	49
	(2) 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	
	① 市民競技力向上対策事業	50
	② スポーツ推進委員活動事業	51
	(3) 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	
	① しらさわ夢図書館運営事業	52～53
	(4) 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	
	① 青少年健全育成推進大会事業	54
	② 放課後子ども教室推進事業	55～56
	(5) 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	
	① 文化芸術行事開催事業	57～58
	(6) 本宮市の歴史と文化の継承と発信	
	① 文化財・史跡保存事業	59
4	安全で安心して学べる教育環境の確保	
	(1) 安全な教育施設の整備	
	① 学校施設等耐震化推進事業	60～61
	(2) 安全・安心な教育環境の確保	
	① 学校給食放射性物質検査事業	62
○	教育委員会運営事業	63～64

I 点検・評価制度の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされている。

本宮市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行に係る点検評価（以下「点検評価」という。）を実施するものである。

2 対象事業

本市では、教育基本法第17条第2項に基づき、市の実情に応じた教育の振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、平成25年度に「本宮市教育振興基本計画」（以下「教育振興基本計画」という。）を策定した。

点検評価の対象事業は、教育振興基本計画の施策体系に基づき、平成27年度教育委員会重点施策に位置付けた事業を対象とした。

3 実施方法

点検評価の実施にあたっては、対象事業の実施状況を明らかにするとともに、今後における課題・改善点を示し、次に示す4段階で自己評価を行った。

ランク	評価基準
A	目標を十分に達成した。 事務事業として大きな成果を挙げた。
B	目標をおおむね達成した。 事務事業として一定の成果を挙げた。
C	目標をやや下回った。 事務事業として期待したほどの成果が挙げられなかった。 課題や問題点がある。
D	目標を大きく下回った。 事務事業として成果が挙げられなかった。 大きな課題や問題点がある。

4 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による学識経験を有する方の知見の活用については、外部の学識経験者で構成する本宮市教育事務評価委員会を設置し、教育委員会の自己評価及びその評価方法に対する評価や、今後の教育行政に向けての意見を聴いた。

○本宮市教育事務評価委員会委員

	委員名	関係所属等
委員長	小澤 悌一	学校教育関係
副委員長	佐藤 カネ子	文化団体連絡協議会
委員	青田 誠	学校教育関係
委員	宍戸 一郎	社会体育関係
委員	下山 拓宏	保護者代表

II 平成27年度評価対象事業一覧

基本目標	施策	事業名	課等	係	
I 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	1 人とのかかわりを通じた豊かな心の育成	保育所事業	幼保学校課	幼保教育係	
		幼稚園管理運営事業	幼保学校課	幼保教育係	
		幼稚園読書活動推進事業	幼保学校課	幼保教育係	
		ブックスタート事業	白沢公民館	社会教育係	
	2 体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	保育所入所児健康づくり推進事業	幼保学校課	幼保教育係	
		幼稚園児健康づくり推進事業	幼保学校課	幼保教育係	
	3 一人一人の育ちにあった教育の推進	障がい児保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係	
	4 ニーズに応じた地域子育て支援の充実	一時保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係	
		延長保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係	
		預かり保育事業(幼稚園)	幼保学校課	幼保教育係	
		子育て支援センター事業	幼保学校課	幼保教育係	
	II 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	1 人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	キャリア教育推進事業	幼保学校課	学校教育係
体験活動促進事業			幼保学校課	学校教育係	
小学校読書活動推進事業			幼保学校課	学校教育係	
中学校読書活動推進事業			幼保学校課	学校教育係	
小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			幼保学校課	学校教育係	
中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			幼保学校課	学校教育係	
スクールソーシャルワーカー配置事業			幼保学校課	学校教育係	
学校復帰支援事業			幼保学校課	学校教育係	
2 思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成		学力向上対策事業	幼保学校課	学校教育係	
		3 心身の健全な成長を目指す教育の推進	小学校児童健康づくり推進事業	幼保学校課	学校教育係
中学校生徒健康づくり推進事業			幼保学校課	学校教育係	
4 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実		特別支援教育支援員配置事業	幼保学校課	学校教育係	
5 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進		小中学校学校教育事業等助成事業	幼保学校課	学校教育係	
		通園通学支援事業	幼保学校課	学校教育係	
III 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援		1 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	成人教育事業	中央公民館	社会教育係
			女性教育事業	中央公民館	社会教育係
			高齢者教育事業	中央公民館	社会教育係
	2 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	市民競技力向上対策事業	生涯学習センター	社会体育係	
		スポーツ推進委員活動事業	生涯学習センター	社会体育係	
	3 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	しらさわ夢図書館運営事業	白沢公民館	社会教育係	
	4 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	青少年健全育成推進大会事業	生涯学習センター	社会教育係	
		放課後子ども教室推進事業	生涯学習センター	社会教育係	
	5 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	文化芸術行事開催事業	生涯学習センター	文化振興係	
	6 本宮市の歴史と文化の継承と発信	文化財・史跡保存事業	生涯学習センター	文化振興係	
IV 安全で安心して学べる教育環境の確保	1 安全な教育施設の整備	学校施設等耐震化推進事業	教育総務課	教育施設係	
	2 安全・安心な教育環境の確保	学校給食放射線物質検査事業	幼保学校課	学校教育係	
		教育委員会運営事業	教育総務課	総務係	
		評価事業 38事業			

Ⅲ 学識経験者の意見

Ⅲ 学識経験者の意見

基本目標Ⅰ 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実

【施策1】人とのかかわりを通じた豊かな心の育成

《評価》

保育所・幼稚園事業ともに、本市独自の幼保共通カリキュラムによる保育事業を展開し、人とのかかわりや基本的な生活習慣等の定着を図り、スムーズな就学につなげていること、さらに「すこやか子育て相談室」を設置し、保育所・幼稚園に通わせないで自宅で子育てをしている親に対しても子育て支援を行うなど、きめ細やかな子育て支援を実施していることは評価できる。

幼稚園児に対する絵本の読み聞かせや、10ヶ月検診の機会を活用した乳児とその親を対象にしたブックスタート事業等、豊かな心の育成の土壌を育む読書の啓発に力を入れていることは評価できる。

《意見》

臨時職員を確保するなど待機児童ゼロに向けての努力を期待したい。

ブックスタート事業で、親へのアンケート調査等を実施し、配付した絵本やパンフレットについての意見や感想などを集約し、今後の改善に生かす試みを提案する。

【施策2】体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成

《評価》

幼児は遊びを通して学び、技能を獲得し、心身を鍛えるといわれている。そういう視点に立ったとき、公立のみならず私立も含めて各施設に補助金を交付し、体を動かす遊びを通じた健康づくりを支援することは評価できる。

《意見》

親子で活動（遊ぶ）することは、幼児の育ちに大きく影響するといわれている。各施設の活動内容を見ると、「親子で～」といった活動内容を実施している施設があるが、すべてがそういう活動を取り入れているわけではないことから、今後取り入れていただきたい。

【施策3】一人一人の育ちにあった教育の推進

《評価》

障がい児保育事業には難しい課題が3つある。①幼いゆえに障がいと判断することが困難であること。②親の理解が得られ難いこと。③専門の保育士を配置することが難しいこと。本市ではこれらの課題を踏まえながら、障がい児保育事業に取り組み、その子にあった適切な処遇と就学につなげようとしていることは評価できる。

《意見》

今後も保育士確保に努力するとともに、福祉、保健との連携を図り、養育センター等関係機関との連携にも留意しながら、保護者への相談体制等の充実に努めてほしい。

【施策4】ニーズに応じた地域子育て支援の充実

《評価》

乳幼児を抱えながら働く親世帯は年々増加しその就労形態も様々、ゆえに、当然ながら親の子育て支援に対するニーズも様々である。一時保育、延長保育、預かり保育等の事業はそういう親のニーズに対応した心強い支援策であり評価できる。

核家族化や少子化は、親の養育機能の低下や育児不安を招き、育児ノイローゼや乳幼児虐待等の問題を引き起こしていると指摘されている。そういう現状の中、入所・入園していない子育て世帯を対象にした地域子育て支援拠点事業は、親の不安解消や負担軽減となるばかりか、子どもにとっても貴重な体験の場となり、子どもの成長・発達を促す機会ともなり評価できる。

《意見》

利用のニーズの高まりに対応できるよう、保育士の確保に努力してほしい。

増える傾向にある利用希望に対して、保護者の負担を軽減できるように努力してほしい。

基本目標Ⅱ 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実

【施策1】人権を大切に、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成

《評価》

キャリア教育推進事業・体験活動推進事業ともに、子どもの体験活動を中心とした内容で構成されており、様々な人から貴重な話を聞いたり、スポーツ体験などを通して感性や情操を豊かにしたりするなど、生きる力の育成に大いに役立つものと期待できる。

小中学校読書活動推進事業では、計画的に図書購入が進められており、貸出冊数や司書への相談件数等も増加、特に本宮二中では司書の配置により貸出冊数が前年度575冊から1028冊と大幅に増加、司書配置の効果が認められる。

小中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業では、各学校とも優秀な成績をおさめており事業の成果が認められる。

SSW配置事業では、諸問題件数が年々減少しつつあること（H25：547件、H26：533件、H27：419件）、学校復帰支援事業でも、適応指導教室に通う児童生徒数が年々増加（H25：3名、H26：5名、H27：9名）し、本年度はその9名中3名が卒業、部分登校も含む5名が学校復帰を果たすなど、両事業とも確実に成果をあげており評価できる。

《意見》

学校との連携に配慮するとともに学校のニーズに沿った講師の選定に努めてほしい。（※キャリア教育の分野について）

本事業は幼稚園読書活動・ブックスタート事業の延長線上にある事業であり、児童・生徒の読書離れを食い止めるためにも、新たに配置された学校図書館司書のさらなる活用を期待したい。

問題を抱える子どもへの指導・支援は、一朝一夕に成果を出せるものではない。今後も保護者や関係機関との連携を密にしながら地道に取り組んでもらいたい。

【施策2】思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成

《評価》

学力向上対策事業では、本市独自に様々な検査を実施している。これら検査の目的は、現状把握→課題の明確化→課題解決策の構築→確実な実践にあるが、教委主導のもと、学力向上対策委員会、中学校区毎の研修会や授業研究会、さらに複数回に及ぶ外部講師による教職員研修会など、各学校の学力向上に向けた様々な手立てが講じられており評価できる。

昨年度から始まった「チャレンジ学習奨励補助事業」では、漢字検定、英語検定のほかに本年度より「算数・数学検定」も加え、子どもたちのチャレンジへの機会を増やしたことは評価できる。参加者は昨年度同様5割であったが、本事業が定着していけば参加者数の増加は十分期待できる。

《意見》

今後は「課題・改善点」にあるように、児童・生徒個々のばらつきに配慮した個別指導の徹底と指導法の工夫を継続し、本市総合計画後期目標値（小学校 54.0、中学校 51.0）を確実に達成することを期待したい。

チャレンジ学習参加者が昨年同様5割であった。受ける受けないは個人の問題であるから何も問題はない。ただ、もっとチャレンジに参加する子どもの数を伸ばすには、合否よりもチャレンジしたことへの勇気・意欲に対する称賛や承認を与えるなどの工夫があれば期待できるのではないか。

【施策3】心身の健全な成長を目指す教育の推進

《評価》

小中学校健康づくり推進事業では、小学校では「歯科・食育」に関するもの、中学校では「食育・性に関する教育・薬物乱用防止」に関する内容など、発達段階に応じた内容を取り上げており適切である。さらに小中ともに「スポーツテスト」を実施し昨年度を上回る結果を得るなど震災の影響を徐々に回復しつつあることも評価できる。

《意見》

低学年での体力低下が解消されていないケースもあり、食育を含めて、今後も継続的な健康づくり推進に努めてほしい。

【施策4】子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実

《評価》

特別支援教育支援員配置事業では、障がいのある児童生徒が普通学級に在籍している学校に支援員を配置することにより、学校はその子の実情に応じたきめ細やかな指導ができると同時に、学校・親・子ども本人にとって安全安心な学校生活が保障されることになり評価できる。

《意見》

障がいを有する児童生徒は増加傾向にあり、その様相は一人一人みな違う。特に配慮すべきことは人間関係におけるトラブル、危険防止である。一人の支援員が複数の子どものを担当しな

なければならない場合はなおさらである。子どもの実態に対応できるよう教員の資質向上に努めるとともに、特別支援教育の有資格者の配置に努めてほしい。

【施策5】震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進

《評価》

小中学校学校教育事業等助成事業では、助成金が、遠足・体験活動・芸術鑑賞・教材教具の購入・部活動援助など、学校の実情に沿ったバラエティに富んだ活用がなされており、子どもの豊かな心の成長に大きく貢献すると同時に、保護者の負担軽減にもつながり評価できる。

通園通学支援事業では、バスの運行及び自転車通学のためのヘルメット支給など、子どもたちの通園通学における安全対策に取り組んでいること、さらに保護者の負担軽減にもつながり評価できる。

《意見》

昨年度と比較しヘルメット支給個数、バス利用者数いずれも減少しているにもかかわらず、事業決算額は昨年度22,072千円に対し本年度56,930千円と大幅に増加、その原因は、「課題・改善点」に記されているようにバス料金改定による委託料金の増大であろう。子どもたちの安全な通園通学のため致し方無いのが実情であろうが、コストダウンに向けての検討が大きな課題である。

基本目標Ⅲ 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援

【施策1】共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進

《評価》

成人・女性・高齢者教育事業では、個人の興味関心や趣味などが多様化し、市民のニーズに沿った講座を開設することが困難な中、新しい講座を開設したり、前年度並みまたはそれ以上の参加者を確保したり、受講者から高い満足度（アンケート調査結果）を得るなど、事業担当者の努力を評価したい。

《意見》

今後も、魅力ある講座や活動内容を工夫し、新たな参加者の開拓に努めてほしい。

ニーズに応じて“スクラップ&ビルド”しながら講座等の充実にも努めてほしい。

【施策2】健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進

《評価》

市民競技力向上対策事業では、一流の講師陣を招聘し、小中学生及び市民全般を対象に技術力及びメンタル面の向上を目指した活動が展開されたことは評価できる。

スポーツ推進委員活動事業では、ここ数年間17名体制であったが、本年度新たに3名の委員が加わり、ようやく定員の20名体制で運営ができるようになったこと、さらに新委員が加わったことを契機に研修会などに積極的に参加し、スポーツ推進委員の意識向上を図るなど充実した体制作りに努めたことは評価できる。

《意見》

市民対象の各種スポーツ大会は、様々な関係団体の協力はもちろんのこと、大会運営の中核であるスポーツ推進委員の活動が不可欠である。委員各自が職業を有しての活動であることを十分に配慮しながら、地域のスポーツの普及、振興を図ることを期待したい。

【施策3】「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進

《評価》

基本施策「本と友だちになれるまち もとみや」の事業として「しらさわ夢図書館運営事業」が位置付けられているが、乳児を対象にしたブックスタート事業、幼児を対象にした幼稚園読書活動推進事業、児童生徒を対象にした小中学校読書活動推進事業も「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した事業の一環としてみてとれるのではないか。しらさわ夢図書館運営事業はこれらの読書推進事業のまさに集大成として位置付けられるものといえる。図書館運営、図書館資料の充実及び資料・情報の提供などの広報活動のほか、ボランティアによる出張おはなし会を数多く企画開催するなど、その事業成果は高く評価できる。

さらに、図書館・学校図書館ネットワークシステムが本格的に稼働し貸し出しの利便性や利用サービスの向上が図られたことにより、利用者数が30%増加したことも評価できる。

《意見》

今後も、学校図書館司書との連携や市民による図書館ボランティアの育成等一層努力されることを期待したい。

各校への司書の配置について努力してほしい。

【施策4】学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実

《評価》

青少年健全育成推進大会事業では、330名という多くの参加を得て青少年の主張及び記念行事が執り行われたことは評価できる。特に、本年度の記念行事として「こころの山脈」を上映したことは、参加者の多数が子どもたちで占められているということを考えると参加者への適切な企画だったと評価できる。

《意見》

青少年健全育成推進大会事業は、社会に貢献できる事業であり、学校、保護者の理解を深めることが参加者を増やすことに繋がるため、PR活動を積極的に行うことを求める。

【施策5】文化や芸術に親しみ活動する機会の充実

《評価》

文化芸術行事開催事業では、音楽、映画、劇、芸能など内容が多岐にわたり、個人の興味関心に応じた内容を用意して多数の市民が参加できるように努力していることを評価したい。また、参加した市民へのアンケート調査が、高い満足度を示していることも評価したい。

《意見》

今後も、楽しく、気軽に、そして子どもから高齢者まで幅広く楽しめる内容を提供できるよう、より一層の努力を期待したい。

【施策6】本宮市の歴史と文化の継承と発信

《評価》

文化財・史跡保存事業では、市民の誇り・宝物である文化財や史跡に対し、予算を確保し計画的にその維持管理に努めていることは評価できる。

《意見》

今後も既存の文化遺産はもちろんのこと、新しい遺跡の更なる発掘にも力を入れるとともに、市内外への積極的な情報発信に期待したい。

基本目標Ⅳ 安全で安心して学べる教育環境の確保

【施策1】安全な教育施設の整備

《評価》

学校施設等耐震化推進事業では、子どもたちの学習・生活の場である教育施設の安全確保に向け、耐震化事業が計画通り着実に進行していることは評価できる。

《意見》

教育施設は、そこで学習・生活する子どもだけのものではない。いざという時の市民の避難場所としての機能も求められる。今後も引き続き計画的に推進されることを期待したい。

【施策2】安全・安心な教育環境の確保

《評価》

学校給食放射性物質検査事業では、食材ごと、一食丸ごとの検査を実施し子どもたちに安全安心な給食を提供するとともに、その結果を市のホームページに公表し保護者の学校給食への不安解消にも努めており評価できる。

《意見》

学校給食に関わる安全性の問題は、放射能汚染だけではない。食中毒、アレルギーなど対応すべき課題は多い。今後とも安全安心な給食の提供に向け学校・行政のさらなる努力を期待したい。

総 括 的 意 見

本報告書に示された38事業が、平成26年度からスタートした「本宮市教育振興基本計画」に則り適切に実施されていることを評価する。

その中でも、以下の2点は本市教育行政の特筆すべき事業として評価できる。

①充実した「子育て支援」事業

さまざまな事業形態を導入し市民のニーズに応じた多様なサービスを提供している。結果、社会問題化している待機児童の解消や幼い子どもを抱える親世帯への充実した支援など、大きな成果を上げていること。

②「本とともだちになれるまち もとみや」をスローガンに掲げ、乳幼児から大人までを対象に、その発達段階をふまえながらきめ細やかな読書啓発に取り組んでいること。

「計画→実施→評価」は一般的な流れである。この流れで言えば「評価」が最終段階のように思われるが、実は「評価」は新たな行動（改善）の始まりでもある。評価報告書の中の「課題・改善点」がまさにそれである。故に、そこに記された内容が次年度にどれだけ改善できたのか、できなかったのかが問われることになる。

報告書作成の際はそのことを念頭におく必要がある。

今後は、報告書の「課題・改善点」の中に、「昨年度～だったが本年度は～に改善できた、できなかった」といった文言が多く登場することを期待したい。

IV 点検・評価の結果

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	1	保育所事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者が就労等により昼間保育することができない就学前の児童を、市内の5か所の保育所で保育する。

[目的]

対象： 就労等により、昼間、児童を保育できない保護者
(何を・誰を)

意図： 就労等により昼間、児童を保育できない保護者に代わり、保育所で保育する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	102,099
財源	
国庫支出金	331
県支出金	151
その他	50,254
一般財源	51,363

[事務事業の活動実績]

○入所児童数 (3月末現在)

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
第1保育所	0人	18人	18人	19人	24人	21人	100人
第2保育所	15人	16人	15人	18人	16人	22人	102人
第3保育所	0人	0人	12人	17人	21人	18人	68人
五百川幼保総合施設	13人	36人	33人	39人	0人	0人	121人
白沢保育所	14人	17人	17人	20人	0人	0人	68人
合計	42人	87人	95人	113人	61人	61人	459人

○先生1人当たり受け持てる人数

0歳児	3人
1・2歳児	6人
3歳児	20人
4・5歳児	30人

[事業の成果]

日中、仕事や介護、病気などを理由に子供の面倒を見る事が出来ない保護者(保育に欠ける児童)に対し、保育所で子供を保育することにより、子育て支援の一助となっている。

0歳から就学前までの乳幼児を受け入れ、発達の連続性を考慮した「幼保共通カリキュラム」を基に保育をしている。発達に必要な経験を積み重ねることで、人とかかわる楽しさや大切さに気づいたり、基本的生活習慣を身に付けることができている。

また、子どもたちを預かる保育所では、特有の多くのリスクを抱えており、万が一の事故やトラブルが生じた場合の危機管理体制等について研修を実施し、人材育成と保育の質の向上を図ることを目的とする職員研修会を計画的に実施した。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、保育士(臨時職員)の確保には苦慮している。
- ・入所希望児童の受け入れは可能な限り行っているが、0歳児に関しては育児休暇満了に伴う申し込みが増加傾向にあり、例年年度末にかけて、数名の待機児童が発生している。また、今後の保育需要の伸びに対応するためにも、一時保育事業の更なる推進及び施設整備事業の進捗が重要となってくる。

[自己評価判断理由] 担当課長

自己評価
A

年度末には待機児童が発生してしまったが、保育需要が増加する中で、臨時保育士の確保に努め、4月1日と10月1日の基準日におけるの待機児童は0人であった。また、保育士不足は全国的な課題であるが、今後の保育士確保のため、臨時保育士の処遇改善を行ったことで、中期的な雇用体制の改善がなされた。

[教育長又は教育部長評価]

保育ニーズが高まる中、特に低年齢児の入所希望が増加している状況において、待機児童を最小限にできたことは評価に値する。本市独自の「幼保共通カリキュラム」は、就学前児童に均一的な保育がなされており、小学校との連携にも寄与している。今後は、保育ニーズを充足する施設整備の推進と保育士確保対策に、引き続き取り組んでいく必要がある。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	2	幼稚園管理運営事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

教育内容の充実と教育環境の整備に努め、市内5か所で4、5歳児を対象とした幼稚園を運営する。

[目的]

対象： 公立の幼稚園児、公立幼稚園
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 園児が安心して幼稚園に通い、学べる環境づくりを推進する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	22,010
財源	
使用料及び手数料	12,339
その他	1,017
一般財源	8,654

[事務事業の活動実績]

○入園児童数 [平成27年3月1日現在]

幼稚園名	4歳児	5歳児	合計
五百川幼保総合施設	53人	50人	103人
岩根幼稚園	55人	40人	95人
糠沢幼稚園	16人	22人	38人
和田幼稚園	7人	16人	23人
白岩幼稚園	22人	24人	46人
合計	153人	152人	305人

○幼稚園保育料の減免措置

*市独自減免額 (27年度前期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	31 367,500	1 7,500	0	32 375,000
上記区分以外の世帯	0 0	1 20,000	0	1 20,000
合計	31 367,500	2 27,500	0	33 395,000

*市独自減免額 (27年度後期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	28 490,350	1 10,500	0	29 500,850
上記区分以外の世帯	0 0	1 28,000	0	1 28,000
合計	28 490,350	2 38,500	0	30 528,850

低所得者及び、保育所・幼稚園に同時に通所通園する場合の第2子以降がいる世帯の保護者の負担軽減を図るため、幼稚園保育料の減免を行った。

○すこやか子育て相談室

幼稚園・保育所に通わないで、自宅で子育てをしている保護者の悩みや困りごとについての相談に応じるため、「すこやか子育て相談室」を実施している。

また、通常の保育状況を参観し、子育ての参考にってもらう保育参観や、季節の行事へ参加を呼びかけ、幼稚園・保育所へ通わない世帯への支援を行った。

[事業の成果]

4、5歳児の就学前までの幼児を受け入れ、「幼保共通カリキュラム」に基づき、幼児の個性や発達段階を考慮しながら教育・保育を実践している。また、幼稚園生活を通して、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育成し、スムーズな就学移行が図られた。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、幼稚園教諭（臨時職員）の確保には苦慮している。
- ・市内5か所の幼稚園は、生活環境及び地域性の違いから、園児数に大きな差が生じている。特に白沢地区においては、少子化等の影響もあり、入園者が年々減少傾向にある。また、余剰教室も発生していることから、保育所待機児童対策の面からも総合的な活用方法等も調査・検討が必要。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

健全な幼稚園運営を行い、本市独自の共通カリキュラムによる保育を実施している。その中で、生活に必要な経験を積み重ね、基礎的な生活習慣や人とのかかわり、思いやりの心を育成し、スムーズな就学につながられた。

[教育長又は教育部長評価]

本市独自の幼保共通カリキュラムに基づき、園生活を通じた幼児教育が適切に行われている。職員（臨時職員）の確保に苦慮しているが、子育て支援事業としてプレ幼稚園や育児相談の対応など、サービスの充実が図られたと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	3	幼稚園読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園児に絵本の読み聞かせや貸し出しを行い、お話の世界にたくさん触れさせるなど、読書習慣の形成を支援する。

[目的]

対象： 市立幼稚園の園児
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活(事業のねらい、対象をどう変えるのか)に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	149
財源	
一般財源	149

[事務事業の活動実績]

幼稚園児に絵本の読み聞かせなどで活用した。

幼稚園名	購入冊数	貸し出し冊数
五百川幼保総合施設	20冊	2,423冊
岩根幼稚園	24冊	2,898冊
糠沢幼稚園	13冊	957冊
和田幼稚園	32冊	681冊
白岩幼稚園	25冊	969冊

[事業の成果]

昨年度に引き続き、読み聞かせや、定期的な貸し出しを行うことにより、読書に対する興味を深め読書習慣を身につけ、日常生活に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養えた。また、保護者からは週末の絵本貸出により、子どもが本に興味を持ち、読み聞かせをする機会が増えるので大変良いと好評である。

[課題・改善点]

年次計画により、図書の更新を図っているが、司書と連携しながら、優良な図書の選定を行う。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保育士による読み聞かせや図書館司書によるお話し会を開催しており、多くの本と出会い、本に親しみ触れる機会を提供することができた。これは、絵本から得る喜びや楽しさを知り、読書習慣を身につけることにつながっている。

[教育長又は教育部長評価]

読書は、子どもの成長過程において計り知れない役割を果たすものであり、発達段階に応じた読み聞かせや図書貸し出しにより、読書の習慣化と家庭読書の推進が図られたと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	4	ブックスタート事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

10か月検診の際に、親子に対して読み聞かせを行い、読書活動啓蒙のために2冊の絵本とパンフレット（バッグ付き）のプレゼントを実施する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	706
財源	
一般財源	706

[目的]

対象： 10か月児・保護者
（何を・誰を）

意図： 乳児期から絵本による語りかけを行い、子どもの発達に合わせた本との関わりを持たせる。保護者に対しては、成長に合わせた読書の必要性を理解してもらう。
（事業のねらい、対象をどう変えるのか）

[事務事業の活動実績]

○ 10か月健診に合わせて、毎月1回実施した。

開催日	人数（人）	会場	
4月23日（木）	19	えぼか	
5月21日（木）	17		
6月25日（木）	19		
7月30日（木）	20		
8月27日（木）	20		
9月17日（木）	20		
10月29日（木）	16		
11月26日（木）	18		
12月17日（木）	24		
1月28日（木）	22		
2月25日（木）	19		
3月24日（水）	26		
合計	240		

[事業の成果]

当該事業を本宮市では合併当初から実施しており、全国的には1741団体のうち962団体が実施している（2016年7月31日現在 NPOブックスタート調べ）。事業の結果、親子の絆が深まり、喜びが感じられる子育てにつながるものと思われる。また、図書館の利用機会増加への効果も期待できる。

[課題・改善点]

ブックスタート事業は、若者の読書離れが進んでいると言われているが、読書のきっかけとなる事業であるため、引き続き本事業を展開する必要がある。

関連事業としては、ブックスタート後のフォローアップとして、平成27年度から3歳児健診の読み聞かせの際に絵本配布を実施をしている。

[自己評価判断理由] 担当課長

本事業は、合併当時から実施している取り組みであり、子どもに読み聞かせをする良い機会となっている。また、親が子どもに対する読書の重要性を認識する機会となり、子どもの読書習慣につながることを期待できる。

[教育長又は教育部長評価]

乳児期の絵本の読み聞かせの重要性を保護者が理解し、親子で本に親しむ機会や習慣化の醸成に寄与する事業として定着しており評価する。

自己評価

A

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通した健やかな体の育成
事業名	1	保育所入所児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な体を育むための特色を生かした健康づくり活動を行う。

[目的]

対象： 公立・私立保育所幼児
(何を・誰を)

意図： 楽しく運動し健康増進を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	400
財源	
一般財源	400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金をPTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立保育所	主な活動
第1保育所	・親子一緒に食育講座を開催し、パネルシアター等により大変好評であった。 ・体操教室を開催し年齢に合わせた運動遊びを行った。
第2保育所	・体育遊びを行い、跳び箱を跳べるようになるための基礎的な運動の指導を受けることが出来た。 ・わらべ歌の講習を行い言葉のやりとりやふれあいの動作に興味を持つ事ができた。
第3保育所	・体操教室を開催し、室内運動により楽しく体を動かす事ができた。 ・水泳教室を実施し、友達と触れ合いながら水に親しむことができた。
五百川幼保総合施設	・講師を招聘し親子体操教室を開催した。親子で楽しめる遊びを習い親子一緒に体を動かす楽しさを体験することが出来た。 ・人形劇団を招聘し、人形劇を通じ外遊びの楽しさや昔ながらの遊びを知ることが出来た。
白沢保育所	・わらべ歌教室を通して、親子で息を合わせながら表現する楽しさを体験できた。 ・幼児体操教室を開催し、リズム感や基礎体力をつけることが出来た。

私立保育所	主な活動
もとみや幼児の家	・体力づくりに関する講演会を開催し、身体づくりについて学ぶことが出来た。 ・食育のため小さな畑等で野菜を作り、作る喜びと食べる楽しさを学ぶことが出来た。
どんぐり保育園	・身長計を購入し、園児の成長の確認等、健康づくりに活用した。
光明保育園	・体操用マットを購入し運動能力の向上を図ることが出来た。

※各施設の運営方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進事業などを企画運営するため、一律の補助額を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮し、屋内活動の充実を図った。また、通常保育でも有効である遊びを通した体力づくりを実施することができた。

乳幼児については、親子の触れ合いを大切にしたい心の健康についての活動を行う事が出来た。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も指導者が、事業実施により習得した技術を生かし幼児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="188 174 331 212">自己評価</td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 212 331 302">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 各施設の実情にあった、健康増進や体力向上のための事業を実施したり、運動用具の購入などを行っている。また、体操教室などで習得した技術を、日々の保育活動に取り入れるなどして、体力向上につなげることができている。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 東日本大震災以降、屋外活動の制限により子どもたちの体力低下が課題となっていたが、本事業を含む複合的な取り組みにより、徐々に回復傾向にある。また、施設毎に子どもたちの健康づくりに配慮した工夫がされ評価する。</p>
自己評価			
A			

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通した健やかな体の育成
事業名	2	幼稚園児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な身体を育むための特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 公立・私立保育所幼児
(何を・誰を)

意図： 楽しく運動し健康づくりを行う。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	300
財源	
一般財源	300

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を幼稚園PTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立幼稚園	主な活動内容
五百川幼保総合施設	<ul style="list-style-type: none"> 講師を迎えての親子体操教室を実施。親子で楽しめる遊びを学び、体を動かす楽しさを味わい、親子のふれあいを図った。 親子体操教室を基に、園児のみでの体操教室を実施。体を使った器具を用いた動きを体験したりすることで、運動遊びの基礎作りにつながった。
岩根幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士を招き、保護者が園児への実技指導を行った。 体操講師を招き、親子で楽しめる運動遊びを経験し、体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことが出来た。 食育講座を開催し身近な野菜に関する興味関心を深めることが出来た。
糠沢幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 親子食育講座を開催し、園児は食に興味関心を持ち、保護者は食品添加物の話を聞き、食の安全の意識を高めた。 運動指導講師を招き、親子運動教室を開催。体力づくりのために、休日の親子運動遊びを促すことができた。
和田幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> わらべ歌教室を開催し、楽しんで身体を動かす事や、ルールを理解して遊ぶ面白さを味わうことが出来た。 水泳教室を開催し、水の中で動いたり、友達と触れ合ったりしながら水に親しむことができ、水泳能力向上に繋がった。
白岩幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> わらべ歌教室を開催し、わらべうたの心地よさを感じ、歌ったり等で楽しんで身体を動かすことができた。 体操教室を実施し、身体を動かすことの楽しさを味わい体力向上を図った。

私立幼稚園	主な活動内容
本宮幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進のため、歯科検診等の充実と、歯磨き教室を実施したことにより、歯科衛生の重要性と正しい歯磨きを学ぶことができた。 体操教室を実施し、身体を動かすことの楽しさを味わい体力向上を図った。

※各施設の運営方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進事業などを企画運営するため、一律の補助額を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮した屋内活動の充実が図られた。また、通常保育でも有効である遊びを通した体力づくりを実施することができた。
発達の段階に合わせた体を使った運動から歯の重要性の啓発等、健康づくりができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も指導者が事業実施により習得した技術を生かし、園児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。

<div data-bbox="188 203 331 235" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己評価</div> <div data-bbox="188 235 331 324" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">A</div>	<div data-bbox="363 141 1428 264"> <p>[自己評価判断理由] 担当課長 各施設の実情にあった、生活習慣や健康増進、体力向上のための事業を実施している。また、体操教室などで習得した技術を、日々の保育活動に取り入れるなどして、体力向上につなげることができている。</p> </div> <div data-bbox="363 264 1428 387"> <p>[教育長又は教育部長評価] 東日本大震災以降、屋外活動の制限により子どもたちの体力低下が課題となっていたが、本事業を含む複合的な取り組みにより、徐々に回復傾向にある。また、各施設とも子どもたちの健康づくりに配慮した事業展開がされており評価する。</p> </div>
--	--

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	3	一人一人の育ちにあった教育の推進
事業名	1	障がい児保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

発達障がい児等を受け入れ、児童の心身の発達に合わせた保育援助を行う。

[目的] 対象： 就労等により家庭で十分保育することができない、集団保育可能な就
(何を・誰を) 学前の障がい児の保護者
 意図： 障がい児担当の保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行う
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) ことで、障がい児の心身の発達を促し、保護者の育児不安解消や負担軽減を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	6,947
財源	
その他	46
一般財源	6,901

[事務事業の活動実績]

担当保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行い、保護者との連携を図り、障がい児保育を行った。

○障がい児保育児童（実人数）

保育所	第1保育所	第2保育所	第3保育所	五百川保育所部	白沢保育所	合計
人数	1	1	0	4	0	6

[事業の成果]

障がい児を支援する担当保育士を各施設の児童数及び対象児童数から判断し配置し、障がいの程度に見合った保育を行っている。また、保護者との連携を深めながら、育児不安の解消や負担軽減に努めている。

[課題・改善点]

対象年齢が低年齢であり、入所の段階で障がい児と判断するのが非常に難しいのが現状である。また、心身の発達も途上であるため、児童の状況等について保護者の理解を得るのが難しい。
 保健担当部署、福祉担当部署と連携を深め、入所児童への適切な処遇はもちろん、小学校入学等の際の適切な情報伝達に配慮していく必要がある。
 さらには、保育士不足の現状を踏まえ、適切な人員配置ができない。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

障がい児の受入に十分な人員配置はできなかったが、支援員を配置したり保育士同士の連携により全て受け入れて、発達段階に応じた個々の支援を行うことができた。また、関係機関や保護者と密に連絡調整を図り、スムーズな就学へつなぐことができた。

[教育長又は教育部長評価]

健常児と障がい児を同時に受け入れ、インクルーシブ教育の理念に沿った集団保育ができたものと評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	1	一時保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童について一時的に保育所で預かる。

[目的]

対象： 一時的に家庭保育が困難となる就学前児童の保護者
(何を・誰を)

意図： 保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童を、一時的に保育所で預かることにより、保護者の子育てを支援する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,243
財源	
国庫支出金	2,100
県支出金	2,100
その他	1,043

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所のうち1施設（五百川幼保総合施設）において、一時保育を実施した。

○一時保育利用児童（延人数）

月	利用人数		計
	五百川幼保総合施設		
4月	93		93
5月	122		122
6月	128		128
7月	114		114
8月	102		102
9月	119		119
10月	156		156
11月	154		154
12月	146		146
1月	127		127
2月	150		150
3月	140		140
合計	1,551		1,551

[事業の成果]

仕事、休養及び疾病などの理由により、家庭においての保育が一時的に困難となった乳児又は幼児を対象に一時保育事業を実施している。受入施設は、五百川幼保総合施設 子育て支援センター内の1施設に集約している。

なお、一時保育事業は、徐々に保護者へ浸透してきており、多様なニーズに対応した保育を実施し保護者の負担軽減に繋がっている。また、集団生活の経験が少ない幼児が集団生活に参加することにより、人とかかわる楽しさなど発達に必要な経験を得るための機会を提供することができた。

[課題・改善点]

保育所待機児童対策の一環としても、一時保育事業の積極的な利用促進PRを行い、子育て支援サービスの更なる充実を図っていく。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

低年齢児の通常保育の受け入れ増のため、受入施設を五百川幼保総合施設にある子育て支援センター内の1施設に集約した。給食設備がないため弁当持参の利用となったが、食物アレルギーの幼児も受入可能となった。保護者のニーズに応じた緊急の利用者の受入体制を整えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

女性の社会進出や核家族化の進展により、一時的に家庭での保育が困難となった場合、本事業に対する保護者のニーズは高い。受け入れ環境を整え子育て支援の充実に寄与できたと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	2	延長保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の就労形態の多様化に伴い、保育時間の延長を希望する保護者に対して延長保育を実施する。

[目的]

対象： 家庭で十分保育することができない就学前の児童の保護者
(何を・誰を)

意図： 保育士を配置して延長保育を実施することで、保護者が安心して就労できるようにする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	25,390
財源	
国庫支出金	100
県支出金	100
その他	1,681
一般財源	23,509

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所において、午後7時まで延長保育を実施した。

○延長保育延べ登録児童数
632名

[事業の成果]

保護者の就労形態の多様化に対応するため、保護者の勤務状況に応じて、午前7時からの早朝保育及び午後6時から7時までの延長保育を実施し、保護者が安心して子育てができる環境を整備し、ニーズに対応して子育て支援が図られている。

[課題・改善点]

特段の課題・改善点は無いが、延長保育事業のさらなる推進を図りながら、きめ細かい子育て支援サービスの充実に努めていく。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

延長保育が必要とされる全ての保護者に対して、午後7時までの就労時間に合わせた保育を実施している。女性の社会進出が増える中、保護者が安心して就労できる環境を整えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

就労環境の多様化や女性の社会参画が進み、早朝及び長時間保育ニーズも高くなっており、延長保育を必要とする幼児はもとより保護者の安心に寄与できたと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	3	預かり保育事業（幼稚園）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園の教育課程に係る教育時間終了後に在園児を保育する。

[目的]

対象： 在園児及び保護者
(何を・誰を)

意図： 通常保育より延長した保育により更なる幼児教育の推進及び、家庭で
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) の育児が困難な世帯に対し子育ての支援を行う。

[事務事業の活動実績]

5か所の市立幼稚園において、午後7時まで預かり保育を実施した。

○実施状況

幼稚園名	登録園児数	利用延べ園児数	保育時間
五百川幼保総合施設	61人	9,870人	【基本利用】 ・通常保育後～午後6時 (土曜日・長期休業期間 は午前7時～午後6時) 【延長利用】 ・午後6時～午後7時
岩根幼稚園	60人	9,612人	
糠沢幼稚園	19人	3,563人	
和田幼稚園	13人	2,432人	
白岩幼稚園	27人	4,427人	
合計	180人	29,904人	

事業費・財源内訳

決算額	千円
	25,340
財源	
国庫支出金	3,846
県支出金	3,626
使用料及び手数料	11,568
その他	1,185
一般財源	5,115

[事業の成果]

幼稚園の教育時間（午後1時）を越え、保育に欠ける要件を有する園児を預かっている。
 保育所と同様の子育て支援を実施することにより、保護者ニーズへの対応と就労支援が図られている。

[課題・改善点]

昨年度に引き続き、延長保育担当の保育士（臨時職員）の確保には苦慮している。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

幼稚園に通う園児の保護者の勤務状況に応じて預かり保育を行い、保護者が安心して就労できる環境を整えることができた。慢性的な臨時保育士不足を解消するため、処遇改善を実施した結果、苦慮はしたが次年度の人材を確保することができた。

[教育長又は教育部長評価]

一時保育（保育所）と同様に、子育て環境の充実に寄与できたと評価する。延長保育担当の職員確保については保育所も同じ課題を抱えているが、処遇改善を実施したことにより、その効果は現れていると考える。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	4	地域子育て支援拠点事業（センター型）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

子育て世帯が集う場を設け、子育て世帯の交流、子育て等に関する相談、援助、地域の子育て関連情報の提供などを行う。

[目的]

対象： 施設入所、入園していない子育て世帯
(何を・誰を)

意図： 子育て世帯の悩みや不安を解消する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	4,503
財源	
国庫支出金	2,092
県支出金	2,088
一般財源	323

[事務事業の活動実績]

○活動内容

子育て支援センター月別利用人数

月	保護者数	幼児数
4月	56	77
5月	70	94
6月	64	89
7月	35	47
8月	34	51
9月	61	84
10月	55	74
11月	61	83
12月	40	56
1月	23	48
2月	50	73
3月	42	63
合計	591	839

[事業の成果]

就園前の乳幼児を対象に「プレ幼稚園」の実施や「子育て相談」を実施し、保護者の子育てに対する悩みや不安の解消が図られている。

また、平日のセンター解放日や各イベントは、多くの子育て世代の交流機会となっており、家庭保育を行っている保護者の負担軽減及びリフレッシュの場となっており好評を得ている。さらに、保育経験の豊富な保育士が担当していることから、質の高い保育及び子育て支援が提供されている。

[課題・改善点]

子育て支援センターの積極的な利用促進PRを行い、事業のさらなる推進と充実を図っていく。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

家庭保育を行っている保護者に、子育ての情報発信や悩み等を相談する場を提供し、子育て支援や不安を解消することができた。また、プレ幼稚園や人形劇鑑賞会などの事業を実施して、幼児期の発達を促し、安心して就園できる環境を整えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

子育て支援センター事業が子育て世代に浸透してきており、気軽に利用できる施設として保護者の不安解消に寄与したものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	1	キャリア教育推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

児童、生徒が自らの将来像を考え、勤労観を養う等の取組みを行うため、講演等を行う。

[目的]

対象： 市内小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 児童生徒が将来への夢や職業を思い描き、その実現に向けて努力することができるようにする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,714
財源	
県支出金	1,941
一般財源	773

[事務事業の活動実績]

- (1) 保育所・幼稚園・小学校・中学校
 - ・基本的な生活習慣の育成として「あいさつ運動」の定着化を図った。
- (2) 小学校5年生・中学2年生
 - ・日本サッカー協会事業によるスポーツ選手を招聘し、夢や挫折、目標を学ぶ教室を開催した。
 - 日時：平成27年10月14日～平成28年1月13日 延べ22クラス
- (3) 中学校3年生
 - ・将来の進路決定の一助とするため大学教授等を講師に迎えキャリア教育講演会を開催した。
 - 日時：平成27年7月2日(木) 午後2時より
 - 講師：渡部 潤一 (国立天文台 副台長)
 - 演題：「何がおこるかわからないから面白い -太陽系小天体の謎-

[事業の成果]

招聘した講師それぞれの、今に至るまでの体験談等(挫折や成功話)が傾聴でき、児童生徒の将来への夢や職業を思い描くための一助とすることができた。

[課題・改善点]

今後も、このキャリア教育を、児童生徒等にとってより有意義で魅力ある内容にするため講師の選定をしていきたい。
特に中学校については、将来の進学・就職に向け様々な職種の方の意見を参考にできるように検討したい。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

トップアスリートやアナウンサーなどによる「夢の教室」の授業や、「キャリア教育講演会」を開催し、将来の夢や職業への希望と、あきらめない強い意志をもつこと、挫折を乗り越えることの大切さなどを伝えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

児童生徒が早い段階で目標を持ち、将来の夢や職業について考えていくことは重要であり、その契機となる事業が展開されたと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	2	体験活動促進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

○スキー体験教室の実施

[目的]

対象： 児童
(何を・誰を)

意図： 屋外運動の機会を創出し、放射線を気にすることで生じるストレスや運動不足を解消する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	9,148
財源	
県支出金	3,708
その他	500
一般財源	4,940

[事務事業の活動実績]

・屋外運動機会が減る冬場に、スキー体験教室を開催し、震災により屋外運動の機会が減っている児童等にその機会を提供した。

○スキー体験教室

実施期間：平成28年1月～2月

対象：小学3年生～6年生

実施場所：あだたら高原スキー場

[事業の成果]

教育委員会においてスキー体験教室実施の機会を設け、各学校の実施計画により実施した。冬場の屋外運動機会を創出し運動不足解消や、ストレス解消の一助とすることができた。

[課題・改善点]

今後も事業継続のための財源確保に努めたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

屋外での運動が制限される冬期間にスキー体験教室を実施し、思う存分運動することは、体力向上、ストレス解消にも有効であった。また、このスキー体験が、成長の糧となることを期待したい。

[教育長又は教育部長評価]

東日本大震災に伴う原発事故を契機に開始された事業であり、事業の継続により冬季間における児童の体力向上と心身のリフレッシュに寄与できたと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	3	小学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,904
財源	
その他	184
一般財源	1,720

[事務事業の活動実績]

●学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮小	198	0	7,903
本宮まゆみ小	278	0	9,313
五百川小	460	0	5,201
岩根小	457	0	6,479
糠沢小	138	0	5,208
和田小	281	0	3,734
白岩小	168	0	5,160

(平成28年3月31日現在)

●学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮小	4,284
本宮まゆみ小	5,945
五百川小	3,664
岩根小	5,247
糠沢小	2,074
和田小	1,338
白岩小	4,195

●学校図書館司書レファレンス対応件数

相談件数63件
紹介・貸出件数862冊

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらすお夢図書館事業のドリーム文庫の貸出や、出張おはなし会、ブックトークを併用し、本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、本宮第二中学校区に1名配置している学校図書館司書と連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約8割であり、今後も新刊等の購入継続を要する。また、図書の選定は、本に接する機会を増やすため学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 2px;">A</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 毎年図書を購入し、充足率は昨年より3%増の85%となった。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、図書館司書による読み聞かせや本の紹介をしており、本に興味を持たせることができ、貸し出し件数も増加傾向にある。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 図書館ネットワークが有効に活用され、学校図書館司書との連携も定着したことにより、小学校における読書環境が向上していると評価する。</p>
---	---

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	4	中学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。
学校図書館司書の活用により、効果的な学校図書館運営を図る。

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活
(事業のねらい、対象に必要知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。
をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,474
財源	
その他	49
一般財源	3,425

[事務事業の活動実績]

● 学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮第一中学校	275	0	10,325
本宮第二中学校	537	0	6,787
白沢中学校	221	0	4,464

(平成28年3月31日現在)

● 学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮第一中学校	476
本宮第二中学校	1,028
白沢中学校	365

● 学校図書館司書レファレンス対応件数

相談件数26件
紹介・貸出件数436冊

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらすわ夢図書館事業の、ドリーム文庫の貸出を併用し本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、学校図書館司書と連携し、図書の貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約7割であり、今後も新刊等の購入を継続し充足率の向上を図っていく必要がある。また、図書の選定は本に接する機会を増やすため、学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。また、本の貸出しについては学校図書館司書と連携し、更なる図書館図書利用促進を図っていく必要がある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

毎年図書を購入し、充足率は昨年より4%増の72%となった。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、ドリーム文庫の貸し出しも併用し図書の充実を図った。二中学区に学校図書館司書を配置していることで、二中の貸し出し件数が急増しその効果が顕著に表れている。

[教育長又は教育部長評価]

図書館ネットワークが有効に活用され、学校図書館司書との連携も定着したことにより、中学校における読書環境が向上していると評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	5	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県小学校音楽祭等への参加や、各種文集コンクール等へ作品の出品を行う。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,423
財源	
一般財源	1,423

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクール等への参加、各種作品出品・出展に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な実績]

●音楽コンクール

①安達地区小中学校音楽祭

【第1部合唱】(8月21日：二本松市民会館)

- ・本宮まゆみ小学校：金賞
- ・本宮小学校：銀賞
- ・岩根小学校：銀賞

②安達地区小中学校音楽祭

【第2部合奏】(9月17日：二本松市民会館)

- ・和田小学校：銀賞
- ・白岩小学校：金賞

③平成27年度ソロ&アンサンブルコンテスト全国大会(10月25日：郡山市民会館)

- ・白岩小学校 アンサンブル部門：銅賞

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保護者やPTA団体の負担軽減を図り、文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう経費等の支援を行った。全国大会への参加など優秀な成績を収めることができた。

[教育長又は教育部長評価]

学校規模に拘わらず積極的に各種大会に参加し活躍できたことは、児童の文化意識の高揚や心の成長につながるものであり評価に値する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	6	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県音楽コンクール等への参加や、中学校英語弁論大会への参加、各種文集コンクール等への出品を行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,157
財源	
一般財源	1,157

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクールや文集コンクールへの参加に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な実績]

●音楽コンクール等

①県吹奏楽コンクール県北支部大会 (7月11日：福島県文化センター)

- ・本宮第一中学校：銀賞
- ・本宮第二中学校：銀賞
- ・白沢中学校：銀賞

②安達地区小中学校音楽祭

【第1部合唱】(8月21日：二本松市民会館)

- ・本宮第一中学校：銀賞
- ・白沢中学校：奨励賞

【第2部合奏】(9月17日：二本松市民会館)

- ・本宮第一中学校：銀賞
- ・本宮第二中学校：銀賞
- ・白沢中学校：銀賞

③県アンサンブルコンテスト県北支部大会 (12月12・13日：県文化センター)

- ・本宮第一中学校：銀賞 (2団体)
- ・本宮第二中学校：銀賞 (2団体)・銅賞 (1団体)
- ・白沢中学校：金賞 (1団体)・銅賞 (2団体)

●英語弁論大会

①安達支部英語弁論大会 (9月2日：しらさわカルチャーセンター)

- ・本宮第一中学校 (6名)：暗唱の部・金・銀賞各1名 創作の部・金・銀賞各1名 スキットの部・3位
- ・本宮第二中学校 (4名)：暗唱の部・金賞1名 銀賞1名 創作の部・銀賞2名
- ・白沢中学校 (3名)：暗唱の部・銀賞2名 創作の部・銀賞1名

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

保護者やPTA団体の負担軽減を図り、文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう経費等の支援を行った。金賞などの優秀な成績を収めることができた。

[教育長又は教育部長評価]

市内の全中学校が各種大会に出場し活躍したことを評価する。音楽コンクールに関しては、今後、計画的な楽器更新を検討していく必要がある。

基本目標	II	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	7	スクールソーシャルワーカー（SSW）配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

中学校区に2名のスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、不登校やいじめ、暴力行為など子どもの深刻な問題行動や虐待、育児放棄及び経済的な困窮家庭などの保護者や子どもに対し、専門的な見地から学校と関係機関の仲介、個々の状況に応じた相談、助言を行う。

[目的]

対象： 小中学校児童生徒、保護者、教職員
(何を・誰を)

意図： 児童生徒や保護者には、SSWにより悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心の安定を図る。また、教員に関してはSSWの専門的なコンサルテーションにより問題解決の糸口を共に探る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	8,944
財源	
国庫支出金	8,726
一般財源	218

[事務事業の活動実績]

教育委員会に専門知識を持つSSWを配置し、市内各幼稚園・保育所・小学校・中学校を巡回し、不登校・いじめなどを含めた児童生徒等が抱える課題解決に資した。

諸問題								計
養育環境	長期欠席	いじめ	暴力行為	貧困	障がい	震災関係	その他1	
133	29	7	11	26	118	7	88	419

現状				計
課題解決	経過良好	支援途中	その他2	
24	74	83	60	241

校種別				計
就学前	小学校	中学校	その他3	
60	145	35	1	241

<項目説明>

○諸問題（複数該当）

養育環境…児童虐待、家族の情緒不安定、家庭内不和、DV、多子世帯、ハイリスク家庭など含む。

長期欠席…30日以上欠席者のほか、登校しぶり、別室登校など含む。

暴力行為…自傷他傷を含む。

貧困…経済的困難さが諸問題にも影響を及ぼすもの。

障がい…知的・身体・情緒：発達・学習などの障害及びその疑いを含む。

震災関係…避難家庭及び震災の影響により諸問題に影響を及ぼしたことが明確なもの。

その他1…いじめ以外の友人関係、教職員との関係、非行などを含む。

○現状

課題解決…一定程度安定して学校等での生活を送ることができ、主訴であった課題の解決が図れたもの。

経過良好…支援は継続しているものの、家庭、学校、関係機関等の尽力により、課題解決に向けた取り組みが順調に行われているもの。

支援途中…支援を継続し、家庭、学校、関係機関等との協働をさらに図っていく必要があるもの。

その他2…卒業や転居により、支援が中断せざるを得ないもの。

○校種別

就学前…市内外の公立私立幼稚園・保育所・療育機関に通う幼児。

その他3…施設入所及び卒業後の生徒。

[事業の成果]

勤務形態である市教育委員会配置・巡回型を継続し、専門性や役割(臨床心理士・社会福祉士/従来対応。震災対応)を行かした活動の充実を図った。特に、直接子ども・家庭・教員を支援する実践だけでなく、校内ケース会議の開催や校内支援体制の確立、長期休暇中の居場所作り(にじいろ広場)などの実践を行った。

教職員、児童生徒と保護者への関わりの中で、課題・問題を関係者間で共通認識し、関係機関と連携を図りながら、多角的な支援につなげることが出来た。

早期発見・早期療育及び啓発・予防の視点から、就学相談を適切に行った。これにより、就学後に起こりうるであろう問題に未然に対応し、また、実際の支援についてもより円滑に進めることを図った。

[課題・改善点]

相談案件の複雑化や、関係者の異動(教職員)に伴う相談支援体制の確立を、継続し図っていく必要がある。

支援を必要とする児童生徒等の個々の案件は多種多様であり、潜在化、及び長期化することも危惧されるため、今後も支援方法等について検討する機会をより多く設け、関係各機関と共に連携できる体制を継続していきたい。

<table border="1"><tr><td style="text-align: center;">自己評価</td></tr><tr><td style="text-align: center;">A</td></tr></table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>市が単独でSSWを通年雇用しているのは、県内でも例がない。児童生徒や保護者の抱えるさまざまな問題の解決に向けて個々に応じた支援しており、課題解決にもつながっている。また、長期休業中の居場所づくり事業「にじいろ広場」も好評である。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>児童・生徒が抱える問題は多岐にわたり、保護者や教職員の関わりだけでは解決に結びつかないケースも多い。このような個々のケースに応じて、傾聴し、寄り添い、最適な関係機関へつなぐSSWの業務成果は特筆に値するものと評価する。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	8	学校復帰支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

さまざまな理由で登校できない児童生徒に対して、学習指導や自立活動を支援することにより、生活や学習に取り組む態度や意欲を高めることを目的とする。支援方法として「適応指導教室」を開催する。また、Q-Uテストを実施し、学校生活意欲や学級満足度から諸問題の未然防止・早期発見を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,742
財源	
一般財源	2,742

[目的]

- 対象： 登校ができない児童生徒、全児童生徒
(何を・誰を)
- 意図： 心に悩みを持ち登校が困難な児童生徒について、適応指導やカウンセリング、学力補充などの支援を行い、早期の学校復帰を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

プログラム内容

- ・ 4月中旬から3月中旬まで、月、水、金の週3日、午前10時～午後2時の開催。
- ・ 主に午前は自主学習、午後は諸活動として美術、スポーツや調理実習などを実施。
- ・ 教室での活動のほかに課外活動にも力を入れ、自然、郷土学習にも積極的に取り組んだ。
- ・ 火、木はできる限り登校に繋げられるよう、学校や家庭と共に働きかけを行った。

- 対象児童生徒数 9名
- 開催回数 112日
- 復帰人数 ・卒業 3名(内進学2名) ・学校復帰(部分登校含む) 5名
- その他支援状況 ・「たより」を月1回発行し、家庭並びに学校に配付することで、活動内容をより具体的に紹介することができた。
- ・各生徒の担任や校長などが、教室を自由に訪れることで、生徒の所属感を維持した。
- ・月毎に各生徒の出欠状況、学習や活動状況を各学校へ報告した。
- ・定期的に指導主事及びスクールソーシャルワーカー(SSW)と打合せを行い、情報交換を行った。
- ・SSWが生徒に応じて、家庭訪問や保護者等との面談を行うことで、指導員の負担感の軽減に努めた。

Q-Uテストの実施

- ・各小中学校の全学級を対象に実施し、学級内の子どもたちの学校生活意欲や学級満足度を把握し、諸問題の未然防止・早期発見を図る。検査結果について、各学校内で検討し、学級経営に活かしている。

[事業の成果]

学校とのケース会議や保護者との教育相談などを通して、通級生に対する周囲の理解を深めていくことができた。

指導員2名体制で運営し、それぞれの得意分野を活かした幅を持たせた関わり・支援を実施し、個々のニーズに合わせた学習支援・体験活動・精神的ケアを行ない、児童生徒の意識向上を図ることができた。

[課題・改善点]

この事業は、長期欠席者をより多く「適応教室」に参加させ、登校へと導くことを目標にしており、まだ教室につながっていない長期欠席児童生徒に対しても、学校や家庭と連携を図りながら、学習支援や自立支援、生活支援を促していく方法を継続して検討していく必要がある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

年々「適応指導教室」の参加者が増えている。得意分野を生かした学習支援や精神的ケアを行い、参加者9名中、3名が卒業し、部分登校も含む5名を学校復帰へと導くことができた。SSWとの連携、指導員の努力の成果と考える。

[教育長又は教育部長評価]

長期欠席児童生徒が抱える心の悩みはそれぞれにあるが、将来への希望にもつながる復帰プログラムとしての本事業は、その実績からも評価に値する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	2	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成
事業名	1	学力向上対策事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

診断的学力検査、学年別知能検査、学習適応性検査を実施し、各校の特色に応じた学力向上プランを実践する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,251
財源	
一般財源	5,251

[目的]

対象： 小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 学力検査及び知能検査等の調及び、漢字・英語検定料の補助を実施し、本市児童、生徒の基礎学力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

調査を実施し、調査結果を分析し、個々の学習状況に応じて学力向上に寄与した。

[主な活動]

○本宮市学力向上委員会を2度(5月、2月)計画し、その間は中学校区毎に随時研修会や授業研究会等を開き、授業力向上に努めた。

また、6回にわたって外部講師を招聘した。教職員を対象とした授業力向上に向けた研修会を開催し学力向上を図るための有効な手だてなどについて研究協議を行った。年度末には、各学校において学力向上に向けた取り組みでは、成果と課題そして各種検査結果から全国平均より下回っている内容の洗い出しを行い、平成28年度の具体的な取り組みを決めることができた。

・本宮市教職員研修会

日程	場所	講師役職・氏名	参加者数
		内 容	
6月18日	五百川小学校	筑波大学付属小学校 教諭 加藤 宣行 氏 講義「今こそ求められる道徳授業の改善」 ※実践授業実施 (6年生 道徳：授業参観)	73人
7月30日	市内各所	本宮むかしむかしの会代表 伊藤 豊子 氏 市内フィールドワーク	43人
8月5日	白沢公民館	水戸教育相談所 所長 水戸 昇 氏 講義「可能性への挑戦 -育てよう希望 伸ばそう個性 本宮っ子-」	54人
8月6日	白沢公民館	福島県立医科大学 看護学部講師 佐藤 利憲 氏 講演「子どもの支援の手法を学ぶ -ベレント・トレーニングの手法を通して-」	70人
8月7日	えぼか	(株)ピーススタッフ 代表取締役 山本 欣子 氏 講義「女性経営者が語る人材育成 -企業も学校も一緒-」	43人
8月20日	本宮第一中学校	福島県教育センター指導主事 高橋進一・加藤真理 氏 実技研修「ICTを活用した授業改善-フラッシュ型教材の作成実習-」	32人

漢字検定、英語検定、算数・数学検定受験希望者に、一人1,000円を上限に受験料補助を行い児童生徒の学力向上対策の一助とした。

○チャレンジ学習奨励補助事業利用実績

児童生徒数	漢字検定 補助利用者数	算数・数学検定 補助利用者数	英語検定 補助利用者数	合計	合格率			
					漢字検定	算数・数学検定	英語検定	
小学校	1,782	656	209	-	865	80%	94%	-
中学校	938	185	66	210	461	63%	65%	74%
合計	2,720	841	275	210	1,326			

[事業の成果]

平成27年度全国標準学力検査NRTの偏差値平均では、小・中学校とも全国平均を上回った。

チャレンジ学習奨励補助事業については全体の約5割の児童生徒が利用し、合格率は、漢字検定が小学校で80%、中学校で63%、英語検定は中学校で74%の結果であった。また、今年度は算数・数学検定の受験についても補助の対象とし合格率は小学校で94%、中学校で65%の結果であった。

教員の日々の授業力向上が学力向上に不可欠であることから、全教職員を対象に、年6回研修を実施し教職員の授業力と資質の向上を図った。

<p>[課題・改善点]</p> <p>平成27年度以降の市総合計画後期目標偏差値は小学校54.0、中学校51.0である。今回、全体の平均値は目標値にほぼ達するが、個々で見るとばらつきがあるため、NRTの結果を踏え、全体の学力底上げを図る取組の継続が必要である。</p> <p>チャレンジ学習奨励補助事業については、有効活用できるよう導きたい。</p>			
<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> </table>	自己評価	B	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>NRTの偏差値平均は、小、中学校ともに、市総合計画目標値(後期計画)の目標値に近いが、昨年より若干下回った。チャレンジ学習奨励補助事業は、約5割の児童生徒の利用であったが、年に数回チャレンジするなど、学習意欲の向上と、努力・挑戦する力を養うことができた。</p> <p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>教職員を対象とした授業力向上の研修会開催や、各学校での学力向上のための取り組みが全体的な学力向上につながっており、全国標準学力検査の偏差値平均は全国平均を上回ったものの、総合計画における目標値には届いていない。また、チャレンジ学習として実施している漢字検定や英語検定、算数・数学検定への児童生徒参加率が5割であったことを踏まえると、B評価が妥当である。</p>
自己評価			
B			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	1	小学校児童健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,400
財源	その他
	1,400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を小学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮小学校	・歯科健康教室を開催し、日常の歯磨指導に活用できる教材を購入するなど、正しい歯磨きについて継続的に指導している。 ・スポーツテストを実施した結果を踏まえ、基礎体力作りのため体育用教材を購入し、児童の体力・運動能力の向上に活用した。
本宮まゆみ小学校	・歯科指導により、虫歯予防のためのはみがきの仕方などを学ぶことができた。運動用ボール類の購入により、体力向上を図ることができた。 ・スポーツテストの結果を把握し継続的に運動に取り組みせる事を行った。
五百川小学校	・はみがき教室を実施し、児童一人一人が健康づくりへの意識を高めることができた。 ・食育のための教材を購入し、保健や家庭科授業を展開することが出来た。
岩根小学校	・歯科教室を実施し、歯の衛生に関する興味関心が高まった。 ・スポーツテストを実施し一人一人のデータを分析し、その課題解決のために、体育の授業に運動身体作りプログラムの自校化を図って取り組めた。
糠沢小学校	・スポーツテストを実施し健康づくり教育環境の整備を進めた。 ・歯科衛生事業に取り組み、歯磨きについて理解を深めた。 ・保健教育教材と清掃用具の補充を行い、児童の体力増進及び、学校の衛生環境改善を図った。
和田小学校	・健康づくりや性教育に関する講師、歯科医や歯科衛生士を招聘し、健康づくりへの意欲や自分を大切にする意識を高めることができた。 ・電子ホイッスルやコースロープ等の体育関係の教材・教具等を充実させ、豊かな心と確かな学力を育む体力づくりと体育技能の習得を図ることができた。
白岩小学校	・体育指導用にランドマーカーや体育用太鼓を購入し、児童の体力づくりに役立てた。 ・健康づくりの面から、温室時計や空気清浄器を購入しインフルエンザ予防に役立てた。

※各学校の方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進、保健指導推進事業などを企画運営するため、一律の補助を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

健康に関する各種教室の開催、また、全学校で実施したスポーツテストの結果を踏まえた基礎体力作りに関する教材の購入等、学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テスト全体の結果を見ると、昨年度を下回る結果であった。特に低学年児では全国・県平均を下回る結果となった。就学前の年代から運動経験の積み上げを行い体力向上を図る事が必要であると思われる。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に即した事業、健康教育事業の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果では、ある一定の学年の体力低下が見られるが、全体的には昨年を上回る結果となり、事業効果が表れている。

[教育長又は教育部長評価]

東日本大震災以降、児童の体力低下が問題視されてきたが、継続した本事業の取り組みにより、全体として体力が向上してきている。さらに、各校の実態に応じた特色ある事業が展開されていることを評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	2	中学校生徒健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	600
財源	
その他	600

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を中学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮第一中学校	<ul style="list-style-type: none"> 給食指導を通し、食生活について理解を深めることができた。 各学年にラケットやボール等のスポーツ用品を補充する事で、体力向上、健康増進を図った。
本宮第二中学校	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストを実施し、結果を運動能力向上の指導に用いた。 サッカー、バレーボール及び、保健指導用DVDを購入し、体力向上と保健指導に活用した。 健康教室に講師を招聘し、性教育に関する啓蒙を図った。
白沢中学校	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘し、性教育・薬物乱用防止の講演会を開催した。 講師を招聘し、スポーツを通して健康管理と生活について学んだ。 バスケットボールやサッカーボール等を購入し、体力づくりや生涯スポーツ奨励の目的で、休み時間等にスポーツを楽しんだ。

※各学校の方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進、保健指導推進事業などを企画運営するため、一律の補助を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

健康啓蒙に関する教室の開催、体力づくりに関する教材の購入を行い学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テストの全体の結果を見ると、昨年数値と比べ緩やかな回復傾向がみられる。体力テストの結果の推移に合った事業の展開が必要である。

<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 学校の実態に即した事業、健康教育事業の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果では、全体的には昨年を上回る結果となり、震災の影響も回復傾向がみられ、事業の効果が表れている。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] 毎年度、継続的に取り組んできた結果、生徒の心身の健康に資する基礎は整ってきている。3校とも工夫をこらした事業展開がされており評価する。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	4	子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実
事業名	1	特別支援教育支援員配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通常の学級に在籍しながらも特別な教育的支援を必要とするLD、ADHD等の障がいをもった児童生徒に対し、一人ひとりのニーズに適切に対応するため支援員を配置する。

[目的]

対象： 市内小中学校に在籍する障がいのある児童生徒
(何を・誰を)

意図： 多動傾向等にある児童生徒や集団生活に馴染めない児童等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、在籍校における生活、学習等様々な教育活動へ参加できるよう適切な対応を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	18,307
財源	
その他	84
一般財源	18,223

[事務事業の活動実績]

発達障がい児童、情緒障がい児童及び肢体不自由児童への生活支援のため、一部を除く小中学校に特別支援教育支援員を10名配置した。

区 分	本宮小	本宮まゆみ小	五百川小	岩根小	糠沢小	白岩小
発達障がい支援	1	1			1	1
情緒障がい支援	1		1	2		1
肢体不自由支援		1				

[事業の成果]

障害等のある児童生徒に対して、適切に「特別支援教育支援員」を配置して、発達や実情を踏まえた、個々にあった支援を行なうことができた。

[課題・改善点]

インクルーシブ教育推進するにあたり、障がいのある子どもが、十分に教育を受けられるための合理的な配慮及びその基礎となる環境整備をしていく必要がある。
限られた人数で、複雑で多種に及ぶ案件に対応するため、人材配置については、今後も十分な検討が必要であ

<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 普通学級に通う障害等のある児童生徒に対して、「特別支援教育支援員」を配置して、発達や実態を踏まえた個々にあった支援を行なった。複数の児童の支援体制となる場合もあるが、事前調査を充分に行い支援体制を決定して、インクルーシブ教育を実践している。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] 市単独事業として特別支援教育支援員を配置し、一人一人のニーズに適応した教育ができたと評価する。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	1	小中学校学校教育事業等助成事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

各学校の特色を生かした学習活動を実施する小中学校PTA団体に対し、助成金を交付する。

[目的] 対象： (何を・誰を) 小中学校児童生徒、小中学校PTA団体

意図： (事業のねらい、対象をどう変えるのか) 地域の特性を生かした体験的活動や、豊かな心と確かな学力を育む学習を展開し、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,791
財源	
一般財源	5,791

[事務事業の活動実績]

各小中学校PTA団体に対し、小中学校教育事業等補助金を交付した。

学校名	補助金額 (円)	主な事業内容
本宮小学校	433,000	・遠足を実施し、自然体験活動・団体行動・公衆道徳を学ぶことができた。 ・芸術教室では演劇鑑賞を行い、本物の芸術に触れることにより豊かな人間性を育む事が出来た。
本宮まゆみ小学校	380,000	・各教科の教材を購入し、学習指導の充実を図った。 ・花壇用土等を購入し校舎内外の環境整備・美化に努め、児童の豊かな人間性を伸長する事が出来た。
五百川小学校	358,000	・新鼓笛楽器編成による楽器等の補充を行い、児童のチーム力が向上した。 ・体育の授業用に屋内用の練習器具を補充する事で児童の意欲的な取り組みが出来た。
岩根小学校	466,000	・社会科見学学習等、体験学習の経費補助を行い、児童の思考力やコミュニケーション能力が高まった。 ・視聴覚・理科教材を購入し、児童が興味関心をもって授業に取り組むことが出来た。
糠沢小学校	257,000	・体験学習、校外活動の補助により多様な社会体験を学習することができ、豊かな人間性を育むことができた。 ・表現活動や調べ学習充実のため、教材を購入し活用する事で豊かな創造性の向上を図った。
和田小学校	167,000	・芸術（音楽）鑑賞教室を通して、生の芸術に触れ、深い関心を持ち、豊かな人間性を育むことができた。 ・授業に必要な教材教具を充実させることで、児童の学習支援を図ることができた。
白岩小学校	287,000	・教材を整備することにより、児童一人一人が実験を行う事が出来、技能取得と理解を深めることが出来た。 ・社会科等の見学学習経費補助を行い、児童の健全な人間性を育む事が出来た。
本宮第一中学校	1,406,500	・部活動用具等を購入し、スポーツ活動への取り組み等の充実が図られた。 ・音楽や環境教育を通じた情操教育の推進を行い健全で明朗な生徒の育成を図った。
本宮第二中学校	1,105,500	・部活動に係る用具等の購入や修繕を行い、充実を図った。 ・総合的な学習では、施設訪問（ぼたん荘）を行い高齢者と触れ合う貴重な体験が出来た。

白沢中学校	930,500	・就学旅行の経費を補助する事で、歴史、文化、自然などの多くの知識を得る事が出来た。 ・野球ベースやクリケット等の部活用品を購入し充実させることで、教育目標の1つ「心と体を鍛える生徒」の達成ができた。
合計	5,790,500	

[事業の成果]

学校や地域の特性を生かした体験活動や講演会、豊かな心と確かな学力を育む学習活動の展開により、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図ることができた。

各学校、特色を生かした事業に取り組んでおり、児童生徒に対する指導も充実したものとなっている。

[課題・改善点]

P T A会員にも広く事業の目的及び成果を報告し、学校とP T Aが情報を共有しながら事業を継続していきたい。本事業を継続することで、各学校の教育事業を推進し、教育目標実現のための重要な事業として位置付けられる。

<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">自己評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 各校それぞれの自由な発想の下、特色ある事業が展開できるよう補助金を交付した。教育目標実現のため、文化・スポーツ振興などあらゆる分野の教育事業を実施しており、児童生徒に対する学習支援と学習指導が充実したものとなった。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] いわゆる「メニュー選択性補助金」となる本事業は、各学校のニーズに即した多様な活用が図られ、教育活動の充実に資するものであり評価する。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	2	通園通学支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通園通学については、幼稚園は保護者の送迎、小学校は集団登校、中学校は徒歩又は自転車を基本とするが、通園通学に支援が必要な児童等に対する安全確保と負担の軽減を図る。

[目的]

対象： 通園通学の片道が概ね2キロメートル以上の園児・児童・生徒
(何を・誰を)

意図： 自転車のねらい、対象 自転車通学者へのヘルメットの支給と通園通学バスの運行
をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

事業費・財源内訳	
決算額	千円
	56,930
財源	
使用料及び手数料	5,494
その他	7
一般財源	51,429

[事務事業の活動実績]

●ヘルメット支給状況

学校名	支給数
本宮第二中学校	99個
白沢中学校	68個

●通園通学バス距離別利用者数

区分	距離				合計
	2キロ未満	2km以上～4km未満	4km以上～6km未満	6キロ以上	
幼稚園	3人	22人	2人	0人	27人
小学校	10人	126人	25人	2人	163人
中学校	0人	70人	35人	13人	118人
合計	13人	218人	62人	15人	308人

[事業の成果]

通園通学については、幼稚園は保護者の送迎、小学校は集団登校、中学校は徒歩又は自転車を基本とするが、通園通学に支援が必要な園児、児童生徒に対する安全確保と負担の軽減が図られた。

[課題・改善点]

委託業者で運行計画に基づき適正に運行している。今年度は全国的なバス料金改定により委託料が増大した。今後、運行体制やコース等を再検討し、通園通学の安全を確保しながらいかにコストを抑え本事業を継続していくかが課題である。

<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>バス料金の改定により委託料が増大したが、地域の見守りの目が届かない白沢地区における支援の必要な園児と児童生徒に対し、継続して通園通学バスを運行した。安全が確保され、保護者の安心と負担軽減が図られた。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>国のガイドライン改定により運行経費が増大しているが、児童生徒の安全確保と保護者の負担軽減のため、通園通学バスの運行を継続していく必要がある。目的に沿った運行がされており、A評価は妥当である。</p>			

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	1	成人教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

生涯学習のきっかけづくりや住民相互のコミュニケーションの場を提供し、趣味の多様化に伴い新しい内容の講座を設け、ニーズに応える。

[目的]

対象： 成人（市民、市内在勤者）
(何を・誰を)

意図： 生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	298
財源	
その他	
	196
一般財源	
	102

[事務事業の活動実績]

成人教育事業として、中央公民館及び白沢公民館において各種成人講座を開催し、生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた。

○成人教育事業

(中央公民館)

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
ラテアート体験教室	6月	1回	7人	0人	7人
涼しげな夏のショー	6月	2回	9人	0人	18人
バラの花の飾り巻き寿司	6月	1回	14人	0人	14人
ALTと学ぶ 楽しい英会話	11月～2月	7回	21人	0人	103人
クワテープで作る大きめのバッグ	11月～12月	2回	14人	0人	27人
ポーセラーツ	11月	1回	8人	0人	8人
素敵なお正月飾り	12月	1回	11人	0人	11人
米粉大福&ピザ	2月	1回	20人	0人	20人
「字遊」講座	2月	3回	17人	0人	49人
アケビ教室	2月～3月	3回	19人	0人	48人
ちどり格子マフラー	2月	2回	6人	0人	12人
合計			146人	人	317人

(白沢公民館)

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
パソコン講座「ワード編」	6月	5回	6人	0人	29人
大人のための読書会	10月～12月	5回	9人	0人	42人
季節のわらべうたであそぼう	6月	1回	15人	15人	30人
涼しげな夏のショー	6月	2回	9人	0人	18人
民謡講座	6月	4回	10人	0人	36人
パソコン講座「エクセル編」	10月～11月	5回	6人	0人	25人
大人のための読書会	6月～7月	4回	7人	0人	26人
蕎麦打ち教室	12月	2回	16人	0人	31人
絵本出でてくるお菓子を作ろう	12月	1回	11人	18人	29人
裂き織りのポシェット	11月～12月	2回	6人	0人	12人
きめこみパッチワーク	11月	1回	16人	0人	16人
パソコン講座「エクセル入門編」	2月	5回	6人	0人	29人
パソコン講座「ワード入門編」	2月～3月	5回	5人	0人	25人
大人のための読書会	2月～3月	3回	11人	0人	27人
楽しい手芸南天丸難猿	2月～3月	2回	16人	人	32人
ちどり格子マフラー	2月	2回	6人	人	11人
ホットケーキミックスのお菓子パン	2月	1回	12人	0人	12人
合計			167人	33人	430人

[事業の成果]

成人教育事業として、各種の講座を開催した中で、講座参加者によりクラブを立ち上げ定期的に活動を始める団体ができるなど、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。

[課題・改善点]

市民が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができたが、募集定数に満たない講座もあり、今後一人でも多くの市民に参加できるよう、募集方法や広報活動に留意しながら、ニーズの掘り起こしを行い、引き続き、趣味の多様化に応じた興味関心のある新たな講座の開催に努めていきたい。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

成人教育事業として、各種の講座を開催し、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。また、少ない経費で大きな成果を上げることができ、市民に対する成人講座開催の認識も定着しており、受講者数は安定している。

[教育長又は教育部長評価]

市民ニーズが多様化しており、各種講座の受講者数は横ばいであるが、受講者の満足度は高いものがあり評価できる。今後も開催講座の工夫に努め、成人教育事業のさらなる充実に努めてほしい。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	2	女性教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

成人女性を対象とし、女性にとって身近な問題に関する内容の講座を開催する。

[目的] 対象： 成人女性
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容を学習することにより、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

女性教育事業として、働く成人女性を対象に女性学級「レディースセミナー」を開催し、健康・趣味・教養などの学習会を通して、学級生の交流を図るとともに楽しく仲間づくりをすることができた。

○女性教育事業

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
レディースセミナー	6月～12月	7回	25人	148人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	91
財源	
その他	
一般財源	91

[事業の成果]

受講生へのアンケートでは、満足度93%となり、また、次年度の受講希望者も半数ほどおり、当初の目的のとおり幅広い体験を通して、受講生それぞれが自分を見つめ学習する「自分磨き」の時間を持つことができ、事業の目的達成ができた。

[課題・改善点]

成人女性が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質の向上を図るため、引き続き、趣味の多様化に対応しながら、成人女性の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

女性教育事業として、働く女性のニーズに応えた学習会が開催され、学習会を通して学級生の交流を図ると共に、豊かな人間性の醸成と資質・能力及び学習の自主意欲の向上を図ることができた。また、講座生同士の仲間づくりにも大きく寄与した。

[教育長又は教育部長評価]

女性の社会参画が進み、働く女性が増加している中、子育てとの両立やコミュニケーション能力の向上など、ニーズに応じた事業ができたと評価する。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	3	高齢者教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催する。

[目的]

対象： 60歳以上の市民
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容の学習をとおして社会参加と仲間づくりができ、生きがいを持ちながら生き生きと心豊かに過ごせるようにする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	58
財源	
一般財源	58

[事務事業の活動実績]

高齢者教育事業として、「本宮ふれあい塾」「新生大学」、各地区に「長寿大学」の学級を開催し、健康・趣味・教養など幅広く学習し、楽しく仲間づくりをするとともに生きがいのある心豊かな時間を過ごすことができた。

○高齢者教育事業

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
本宮ふれあい塾	5月～12月	8回	25人	157人
新生大学	6月～12月	8回	21人	110人
青田地区長寿大学	6月～11月	4回	33人	121人
荒井地区長寿大学	6月～11月	6回	43人	174人
仁井田地区長寿大学	6月～11月	8回	31人	196人
高木地区長寿大学	6月～11月	8回	32人	199人
岩根地区長寿大学	6月～11月	8回	27人	181人

[事業の成果]

受講生へのアンケートの結果、受講の満足度は高く、講座内容に対する評価も全員が「役にたった」であった。講座内容として、健康講話や料理講習、軽運動、手芸、園芸などを行ったが、次年度へのアンケートを実施した結果を踏まえて、次年度の計画を策定した。

[課題・改善点]

高齢者が生きがいを持ち生き生きと心豊かに過ごし、社会参加と仲間づくりを図るため、引き続き、高齢化社会に対応した高齢者の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。受講生のほとんどが女性であり、困難ではあるが男性の参加率を高める方策に取り組む必要がある。

[自己評価判断理由] 担当課長

高齢者教育事業として、各地区の高齢者の要望に応えた学習会が開催され、学習会を通して仲間づくり、生きがいづくりなど、楽しく心豊かな時間を提供することができた。また、講座生数も増加しており、講座の認識も定着している。

[教育長又は教育部長評価]

高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進など、目的に沿った事業が展開されている。すでに定着した事業ではあるが、参加者数も増加しており評価できる。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	1	市民競技力向上対策事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

バレーボール、陸上競技について専門家を招き、複数回にわたり、継続的に指導を行う。

[目的] 対象： 市民（主に小中学校児童生徒）
（何を・誰を）

意図： 市民個々の競技能力を高めるとともに、各種競技選手の育成を図る。
（事業のねらい、対象をどう変えるのか）

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,900
財源	
一般財源	1,900

[事務事業の活動実績]

講師名	経歴	対象者	回数
一般財団法人 ふくしまスポーツプロ モーション	福島大学男子・女子 バレーボール部監督等	本宮一中・本宮二中・ 白沢中バレーボール部	6回
特定非営利活動法人 スポーツ塾J.VIC所属 監督及びコーチ	オリンピック及び世界 陸上選手権大会出場経 験者	市内小学生	7回
特定非営利活動法人 スポーツ塾J.VIC所属 監督及びコーチ	日本体育大学准教授 大学駅伝部元監督	市民全般	1回

[事業の成果]

全てのチームや選手に共通する基本的な動きを重視した指導を行う中で、普段の練習では行わないようなトレーニングなども取り入れ、学年や個人によってレベルは異なるが成長を確認することができた。

[課題・改善点]

チームにより、また学年や個人によりレベルは異なるため、どのレベルに焦点を合わせるか難しい面があり、共通した指導では競技力向上を目指す本事業の目的と一致しない一面が生じており、今後はチーム個別にレベルに合った指導するという形を取り入れて実施したい。

[自己評価判断理由] 担当課長

各競技の専門家の的確な指導により、基礎的レベルが確実に上がっており、特に南達陸上交歓会では新記録が出るなど事業の成果があらわれていると考えられ、継続的に実施していく事の重要性が認められた。

[教育長又は教育部長評価]

結果を得るためには時間を要するが、継続して実施することにより個の基礎力と指導者の指導力は向上していると評価する。

生涯スポーツの観点からは、より多くの市民・指導者が参加できる競技種目を検討していく必要がある。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	2	スポーツ推進委員活動事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

市民に対しスポーツの普及と健康づくりの大切さの啓蒙を行うとともに、各種スポーツ大会運営の協力を行う。(定数20人以内)

[目的]

対象： 市民、スポーツ推進委員
(何を・誰を)

意図： 地域の身近な指導者として市民に対し指導助言を行い、個々の技術向上と体力向上の支援を行うとともに、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図っている。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	933
財源	
一般財源	933

[事務事業の活動実績]

○活動実績

	事業名	活動人数【延べ】
1	ロードレース大会	11名
2	市民体力測定	7名
3	もとみや駅伝大会	12名
4	福島県縦断駅伝大会	4名
5	なわとび選手権大会	10名
6	上尾市スポーツ推進委員先進地視察研修	6名
7	福島県スポーツ推進委員新任者研修	3名
8	福島県スポーツ推進委員研究大会	7名
9	生涯スポーツ・体力づくり全国会議	3名
10	各種会議等(4回)	46名
	合計	109名

[事業の成果]

市や市教育委員会が主催する大会、自主開催事業(市民体力測定会)など9事業(各種会議等を除く)に、延べ63名の委員に大会運営に協力いただいた。

[課題・改善点]

スポーツ推進委員20名を委嘱し各種事業の運営協力をいただいているが、委員それぞれ職業を持ち仕事に折り合いをつけながらの参加であり、活動・参加状況に偏り傾向が見受けられる。一方で平成27年度更新時に委員の一般公募を行い、新たに3名の委員が加わり、組織の活性化が見られた。

委員には、勤務の関係で全ての事業への参加は困難な方もいると思われるが、これからも協力をお願いし、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図りたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

市民体力測定はスポーツ推進委員自らが中心となり実施する事ができ、地域のスポーツの普及活動に大きく貢献することができた。また、上尾市のスポーツ推進員の交流を行い、親睦を深め意識の向上が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

スポーツ推進委員会の活動が充実し、自主開催事業が増えたことを評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	3	「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進
事業名	1	しらさわ夢図書館運営事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

住民の読書活動・情報活動の拠点として、読書活動の振興・活性化を図るために、図書館の適切な運営を行い、図書館資料を充実させ、利用者に必要な資料・情報の提供を行う。また「本宮市子ども読書活動推進計画」を実施するための具体的事業の企画・実施と広報活動を行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,645
財源	
その他	114
一般財源	
	11,531

[目的] 対象： 市民
(何を・誰を)

意図： 市民が、読書の楽しみや有益性を認知し、生活のあらゆる場面で図書館の資料が身近に活用できるような環境をつくる。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

- 市内幼稚園・保育所・小学校のおはなし会の開催にボランティアの協力を得ることで、読書推進活動のより一層の充実を図ることができた。
- 図書館資料購入 1,769件

【出張おはなし会開催状況】

開催日	開催場所	対象者数(人)
5月 7日	白岩小学校	65
5月 8日	どんぐり保育園	40
5月21日	第2保育所	40
6月10日	五百川小学校	80
6月12日	本宮小学校	60
6月17日	もとみや幼児の家	18
6月18日	糠沢小学校	28
6月25日	糠沢小学校	32
7月 6日	和田幼稚園	30
7月 8日	本宮小学校	60
7月15日	糠沢幼稚園	43
9月 8日	白岩幼稚園	70
9月15日	和田小学校	35
9月24日	第3保育所	60
9月29日	和田幼稚園	24
10月 1日	岩根小学校	120
10月23日	もとみや幼児の家	30
11月17日	第1保育所	110
11月18日	第3保育所	16
11月20日	本宮小学校	47
11月26日	白沢保育所	25
12月 2日	五百川幼保総合施設	108
12月 4日	岩根幼稚園	97
12月16日	白岩幼稚園	50
1月12日	本宮まゆみ小学校	45
1月21日	本宮まゆみ小学校	50
1月28日	白沢保育所	50
2月18日	五百川幼保総合施設	120
合 計		1,553

【有効登録者数】

施設名	有効登録者数(人)
図書館	8,855
図書室	4,763
移動図書館	2,983
合 計	16,601

【利用状況】

	利用人数（人）	貸出数（件）	返却数（件）
4月	1,803	2,713	2,419
5月	2,430	10,995	3,135
6月	2,649	4,064	3,352
7月	3,266	5,656	5,542
8月	3,687	6,646	10,814
9月	2,918	10,112	5,356
10月	2,382	3,634	3,705
11月	2,356	7,684	6,307
12月	2,290	8,054	8,327
1月	2,423	5,090	5,309
2月	2,453	3,686	3,636
3月	2,787	3,641	11,815
合計	31,444	71,975	69,717

【蔵書冊数】 63,091冊

【事業の成果】

利用人数、貸出数、返却数とも前年より増加しており、利用人数は30%の増加となった。
 平成24年度に図書館・学校図書館ネットワーク機器の整備が完了し、図書館と学校の相互貸出や検索が可能となり、利便性が向上している。また、図書館で養成している読書活動ボランティアとの連携により利用サービスが向上した。

【課題・改善点】

学校図書館運営・整備に対して、図書館のボランティアの依頼が増加したため、より多くの新しいボランティアを養成するための講習会を開催しており、継続して育成を図る必要がある。
 学校図書館システムネットワーク化に伴い、各学校で購入した蔵書等の入力や装備業務に対応する人員の確保については、平成26年度より配置された学校司書の助力を得て対応しているが、今後も継続して配置が必要である。

自己評価

A

【自己評価判断理由】 担当課長

学校図書館システムの稼働により、公共図書館から学校図書館への支援がより活発になり、児童・生徒の読書活動の活性化や学力の向上が期待できる。また、システム導入は、本宮市の子ども読書活動の活性化につながり、今年度の利用人数にも効果が表れていると思われる。

【教育長又は教育部長評価】

図書館と学校のネットワーク化により利便性が向上し、利用者が増加している。昨年度に配置した学校図書司書と学校との連携により学校図書室がさらに充実し、児童生徒の読書意欲の向上にも寄与しており評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	1	青少年健全育成推進大会事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

地区青少年育成推進協議会や関係機関等からの協力を得て、各小中学校代表による「少年の主張」の発表と記念講演等を開催する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	88
財源	
一般財源	88

[目的]

対象： 青少年、青少年を取り巻く全ての人
(何を・誰を)

意図： 青少年問題のもつ重要性を踏まえ、広く市民や青少年と関わりのある人の理解と協力を得て、次代を担う青少年の健全な育成を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

○ 第8回本宮市青少年健全育成推進大会

(1) 開催日時：平成27年11月22日(日)

(2) 会場：サンライズもとみや

(3) 内容：○「少年の主張」作品発表(12名)

発表者	小学校の部	本宮小学校6年	佐藤 三希
		本宮まゆみ小学校6年	遊佐 海希
		五百川小学校6年	遠藤 晃己
		岩根小学校6年	保科 京香
		糠沢小学校6年	服部 大樹
		和田小学校6年	川名 奏羽
		白岩小学校6年	林 美月

中学校の部	本宮第一中学校2年	國分 優季奈
	本宮第二中学校3年	安田 広海
	白沢中学校3年	菅野 美南

高校生の部	本宮高等学校2年	塩田 智樹
	浪江高等学校2年	中野 清美

○ 大会宣言 本宮市教育委員会教育長 原瀬 久美子

(4) 参加者：330名

(5) 記念行事：上映映画「こころの山脈」

[事業の成果]

次世代の主演となる子どもたちが、心豊かにたくましく成長できるよう、「本宮市青少年健全育成推進大会」の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、家庭・学校・地域社会及び行政が一体となった市民総ぐるみ運動の実践として青少年の健全育成を図ることができた。

[課題・改善点]

次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、小中学校の理解と協力を得て、「本宮市青少年健全育成推進大会」を開催している。発表者の関係者以外の参加について、今後も多様な周知活動を行って、より多くの市民の参加を呼びかける必要がある。

[自己評価判断理由] 担当課長

少年の主張・記念講演・大会宣言など、青少年健全育成推進大会の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、青少年の健全な育成が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

青少年健全育成推進大会の参加者が増加し、徐々にではあるが本事業の重要性が市民に浸透しており評価できる。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	2	放課後子ども教室推進事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

放課後に社会教育施設等を活用し、年間計画による一斉活動や子どもたちの要求に合わせた自由遊びの時間なども確保しながら活動指導員や安全管理員を配置し、子どもたちにスポーツ・文化活動などの体験活動を実施する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 放課後等の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身につくなど健全な育成を図れる。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,880
財源	
県支出金	2,880

[事務事業の活動実績]

放課後の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身に就くなど健全な育成が図られた。

1. 本宮市遊友クラブ運営委員会の設置

- 運営委員会の開催 (2回開催・委員16名)
- コーディネーターの配置 (本宮地区4名・白沢地区1名)
- 1クラブ当り係員の配置 (活動指導員2～3名・安全管理員2～3名)

2. 実施状況 (7ヶ所)

クラブ名	対象校	実施場所	曜日	児童数(名)	係員登録(名)
もとみや遊友クラブ	本宮小学校	本宮小学校	金	68	20
まゆみ遊友クラブ	本宮まゆみ小学校	本宮まゆみ小学校	木	45	15
ごひゃくがわ遊友クラブ	五百川小学校	五百川小学校	水	43	17
いわね遊友クラブ	岩根小学校	岩根地区公民館	水	55	14
ぬかざわ遊友クラブ	糠沢小学校	糠沢分館	木	74	13
わだ遊友クラブ	和田小学校	和田分館	水	41	12
しらいわ遊友クラブ	白岩小学校	白岩コミュニティーセンター	月	41	13
合 計				367	104

3. 参加状況

クラブ名	実施回数	参加児童 (延べ数)	参加係員 (延べ数)
もとみや遊友クラブ	31	1,486	180
まゆみ遊友クラブ	32	901	151
ごひゃくがわ遊友クラブ	32	1,018	159
いわね遊友クラブ	32	1,206	162
ぬかざわ遊友クラブ	32	1,908	187
わだ遊友クラブ	32	1,046	148
しらいわ遊友クラブ	32	970	108
合 計	223	8,535	1,095

[事業の成果]

各遊友クラブでは、地域の方々と触れ合う機会を大切にしながら、地域の特性を活かした様々なプログラムにより活動しており、放課後の子どもたちの安心安全な居場所として、参加している子どもや保護者、または地域の方々から好評を得ている。

[課題・改善点]

児童が減少傾向にもかかわらず、参加児童が増えており、それらに対応するため、活動指導員や安全管理員の確保が重要となってきている。安定したクラブ運営を継続していくため、引き続き係員の募集と確保により人材の育成に努めていきたい。

<div data-bbox="172 159 317 197" data-label="Text">自己評価</div> <div data-bbox="172 197 317 286" data-label="Text">A</div>	<div data-bbox="357 98 1485 224" data-label="Text"> <p>[自己評価判断理由] 担当課長 保護者及び地域の方々の理解をいただき放課後の安全安心な居場所として定着している。継続して事業を進めていきたい。</p> </div> <div data-bbox="357 224 1485 342" data-label="Text"> <p>[教育長又は教育部長評価] 保育の有無に拘わらない児童の安全で安心な居場所づくりに寄与し、市民ボランティアの指導と見守りの中、地域とのつながりを深めることができているものと評価する。</p> </div>
--	--

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	5	文化や芸術に親しみ活動する機会の充実
事業名	1	文化芸術行事開催事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化への興味と参加意識を向上させるため、優れた舞台芸術や映画の鑑賞を提供する。
また、スポーツの実技指導の機会を市民に提供する。

[目的]

対象： 市内幼稚園、保育所、小・中学校の幼児、児童生徒、一般市民
(何を・誰を)
意図： 優れた芸術や映画の鑑賞などを通して、知識や教養を深め、情操豊かな市民を育成するとともに、市民の生涯学習を推進する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,474
財源	
その他	1,725
一般財源	3,749

[事務事業の活動実績]

(1) 文化・スポーツ振興基金事業（市民のための芸術鑑賞実行委員会補助金）

内 容	「ノエ・乾と仲間たち」ヴァイオリンコンサート
開催期日	平成27年6月26日（金）18時30分 1回公演（約90分）
来場者	331人
会場	サンライズもとみや 大ホール
補助事業者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
事業費	262,609円（公演料は中学校芸術鑑賞教室で対応）

内 容	「ピーターパンとウェンディ」ミュージカル公演
開催期日	平成27年12月19日（土）①10時～・②14時～
参加者	①288人、②195人
会場	サンライズもとみや 大ホール
事業費	1,498,538円

(2) みんなの作品展

内 容	余暇や講座等で制作した作品の展示
開催期日	平成27年12月4日（金）～12月10日（木） 7日間
出品内容	出展者/市民・市内勤務者112人 作品数187点 来場者321人
会場	中央公民館 展示ホール、第2研修室、第3研修室

(3) 子どもの映画鑑賞事業

内 容	親子ドリームシアター「怪盗グルーのミニオン危機一髪」
開催期日	平成27年8月22日（土）①10時～・②13時30分～
来場者	幼児・児童・保護者331人
会場	サンライズもとみや 大ホール
事業費	108,000円

(4) 芸術鑑賞教室公演委託事業

幼児から中学生まで成長段階にあわせた芸術鑑賞教室を開催し、舞台の楽しさを体験することができた。

内 容	幼保芸術鑑賞教室公演「赤ずきんとミニコンサート」/劇団こぐま座
開催期日	平成27年8月27日（木）9時50分～11時
参加者	415人
会場	しらさわカルチャーセンター
事業費	432,000円

内 容	小学校芸術鑑賞教室公演「打楽器エンターテイメントファンクション」
開催期日	平成27年9月3日（木）①10時20分～・②13時30分～
参加者	430人
会場	しらさわカルチャーセンター
事業費	561,600円

内 容	中学校芸術鑑賞教室「ノエ・乾と仲間たち」ヴァイオリンコンサート
開催期日	平成27年6月26日（金）14時～
参加者	300人（3中学校 1年生対象）
会場	サンライズもとみや 大ホール
事業費	864,000円

内 容	第5回とっておきの音楽祭in南達
開 催 期 日	平成27年9月13日(日)
来 場 者	延5,021人
会 場	みずいる公園
補 助 事 業 者	(社)もとみや青年会議所
補 助 金 額	500,000円

内 容	2015年第3回カナリア映画祭
開 催 期 日	平成27年9月19日(土)~20日(日)
参 加 者	270人
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮の映画文化を継承する会
事 業 費	100,000円

内 容	本宮市民俗芸能大会
開 催 期 日	平成27年11月29日(日)
来 場 者	550人
会 場	しらさわカルチャーセンター
補 助 事 業 者	本宮市民俗芸能大会実行委員会
補 助 金 額	500,000円

内 容	第3回もとみやかるた大会
開 催 期 日	平成27年10月4日(日)
出 場 者	98人(来場者300人)
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮むかしむかしの会
補 助 金 額	300,000円

[事業の成果]

子どもから大人そして親子を対象に、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、市民の文化芸術活動に対する意識向上が図られた。なお、アンケートの結果についても高い満足度の回答があった。

平成25年度から始まった「もとみやかるた大会」も継続され、新たな分野の開拓がなされ市民の文化活動に触れる機会が拡大が図られた。

[課題・改善点]

多くの文化芸術行事を開催したが、各事業ともほぼ前年を上回る参加者を得ており、一定の成果を上げることができたといえる。今後も各事業について、ニーズ調査や実施後のアンケート調査をもとに実行委員会等との協議を経て、事業内容に工夫を加え、市民の積極的参加を促していきたい。

<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">自己評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>多種多様な事業を行っている中で、観覧者に満足を与える事業を実施することができた。文化・スポーツ振興基金事業では、毎年多様な分野の企画がされており、市民の満足度は高いと思われる。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>限られた予算の中で、市民の感性を刺激する事業がそれぞれに成功裏に展開できたものと評価する。</p>			

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	6	本宮市の歴史と文化の継承と発信
事業名	1	文化財・史跡保存事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、指定、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理を行う。

[目的]

対象： 国・県・市指定文化財、天然記念物
(何を・誰を)

意図： 貴重な指定文化財・史跡を適切に管理保存し、後世に伝え遺す。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	12,492
財源	
その他	55
一般財源	12,437

[事務事業の活動実績]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理のための事業を行った。

○文化財看板設置及び修繕

指定文化財案内板及び説明板修繕（6箇所）（シール張り替え） 45,000円
 ・「天王壇古墳」 ・「庚申壇古墳」 ・「鈴木広視歌碑」 ・「新昌寺石造供養塔」
 ・「田中の肥上桜」 ・「高木寺の鰐口」「高木寺供養塔」(一括)

○指定天然記念物樹勢回復事業

・塩ノ崎の大ザクラ
 ・安達太良神社の森のサクラ
 ・磐森のツバキ 712,800円

○福島県指定文化財保存事業補助

・岩角山「那智観音堂」修復工事及び「毘沙門堂」修復工事 11,075,000円
 ・岩角山現地説明会の開催 平成27年7月18日(土)

[事業の成果]

- ①震災で被害を受けた県指定「岩角山」の修復工事（3カ年計画の最終年度）を完成させた。
- ②文化財の説明看板の修繕工事を実施した。
- ③指定天然記念物である「磐森のツバキ」、「安達太良神社の森」の桜の古木、「塩ノ崎の大ザクラ」の樹勢回復事業を実施した。

[課題・改善点]

文化財は民俗文化財から埋蔵文化財、天然記念物と広範囲にわたり、また各種問合せの多いの多い分野である。この対応には苦慮する点が多々あり、知識と経験が求められることから、若い次世代の後継者の育成が必要と考えられる。

<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 県指定名勝及び天然記念物である「岩角山」の3つの御堂、「奥の院」「那智観音堂」「毘沙門堂」の修復工事を完成する事が出来たことは震災復興の大きなシンボルとなった。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] 指定文化財等の保存について、年次計画に基づき実施できた。埋蔵文化財の保存も日常的に開発事業者に指導できたものと評価する。</p>			

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	1	安全な教育施設の整備
事業名	1	学校施設等耐震化推進事業
担当課		教育総務課

[事業概要]

市内の学校施設で昭和56年以前に建築された2階建て以上もしくは1棟の面積が200㎡以上のすべての施設について、耐震診断を行い、その結果に基づき耐震化工事を行う。

[目的]

対象： 白沢中学校施設、本宮第一中学校
(何を・誰を)

意図： 地震で倒壊しない、児童・生徒等が安心して過ごせる施設にする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	521,913
財源	
国庫支出金	170,128
市債	345,300
その他	6,485

[事務事業の活動実績]

●白沢中学校施設

耐震化計画に基づき、白沢中学校体育館耐震補強改修工事を実施した。

取組内容

[体育館耐震補強改修工事] (H27.5.22～H28.2.29)

ブレース補強及び柱脚部補強等の耐震補強工事に加え、平成26年度に実施した設計業務及び耐震判定審査会より、東日本大震災で影響を受けた地滑りの補強対策も必要とされたため、地滑りの補強対策(妻柱構造補強)を行った。

また非構造部材の老朽化・落下防止対策も併せて実施した。

- ・改修範囲 鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造2階建(昭和56年築) 延床面積1,311㎡
- ・耐震補強 妻柱構造補強5箇所、桁梁構造補強14箇所、柱脚鉄骨補強12箇所 壁・屋根ブレース補強48箇所、大梁方杖新設12箇所 外
- ・大規模改造 屋根、外壁塗装改修、内壁塗装及び壁材張替、天井材張替 アリーナ床複合フローリング張替、電灯設備更新、便所改修 バスケットゴール更新、玄関スロープ新設 外

[体育館耐震補強改修工事監理業務委託] (H27.5.22～H28.3.7)

●本宮第一中学校

耐震化計画に基づき、本宮第一中学校南校舎耐震補強改修工事を実施した。

取組内容

[南校舎耐震補強改修工事] (H27.6.19～H28.10.10)

工事面積及び補強箇所が多く、また教室ローテーションを行いながら居ながら施工を行うために、3工区に分割して工事を行っている。

また、生徒の安全な動線を確保した仮設計画を行うため、約16ヶ月の工期を要することから、繰越明許を行った。

- ・改修範囲 鉄筋コンクリート造3階建(昭和47年築) 延床面積2,467㎡ 渡り廊下 鉄骨造2階 延床面積120㎡
- ・耐震補強 鋼管ブレース補強19箇所、柱包帯補強8箇所、耐震スリット3箇所 ベランダ及び玄関、昇降口パラペット軽量化 外
- ・大規模改造 クラック全面補修、内外部大規模改修、トイレ全面改修、給排水管全面更新、FF式石油ヒーター新設、エレベーター設置 校内LAN改修、電気設備更新、機械設備更新 外

[南校舎耐震補強改修工事監理業務委託] (H27.6.19～H28.10.19)

耐震補強改修工事と同じく繰越明許を行った。

[旧体育館等解体積算業務委託] (H27.7.1～H27.9.28)

耐震化完了後において解体する旧体育館及び屋外プールの積算を行った。

[事業の成果]

学校施設等耐震化推進計画に基づき、白沢中学校体育館耐震補強改修工事を計画通りに実施することができた。また、本宮第一中学校南校舎耐震補強改修工事については、面積及び補強箇所が多く、かつ居ながら施工のため、繰越明許を行い工事を行っている。
また、平成28年度に施工予定の本宮第一中学校旧体育館等解体積算業務を実施した。

[課題・改善点]

震災及び原発事故以降、工事請負業者の不足や工事単価の上昇が続いており、工事施工や事業費への影響が懸念される。

<table border="1"><tr><td style="text-align: center;">自己評価</td></tr><tr><td style="text-align: center;">A</td></tr></table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 学校施設等の耐震化事業は計画的に推進されており、施設の安全等が確保されることにより、児童・生徒が安心して過ごせるとともに、教育環境の改善と向上が図られた。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] 学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震改修工事が予定通り進められていることは、児童生徒の安全確保と教育環境の向上に資するものであり評価に値する。</p>			

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	2	安全・安心な教育環境の確保
事業名	1	学校給食放射性物質検査事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

給食の食材検査を実施する。

[目的]

対象： 学校給食
(何を・誰を)

意図： 安全安心に提供する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,067
財源	
県支出金	2,151
一般財源	8,916

[事務事業の活動実績]

・セシウム134とセシウム137の合算値が10Bq/kg未満を独自基準値として毎食測定を実施する。

(※国の一般食品中の放射性物質の規制値は100Bq/kg)

・10Bq/kgを超えた食材数 . . . なし

[事業の成果]

各施設で実施している学校給食の測定について、食材毎、1食丸ごと、1食分検査を行い市独自基準である10ベクレル未満であることを確認し、安全安心な給食提供を行った。

[課題・改善点]

各施設にて検査を行っているが、集約して検査をすることが可能か検討を要する。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

食材ごと、1食丸ごとの放射性物質検査を毎食実施し、市の独自基準を超えることなく安全安心な給食を提供することができている。また、市のホームページに公表することで、保護者の不安が解消につながっており、弁当持参の児童生徒は年々減少している。

[教育長又は教育部長評価]

独自基準による放射性物質検査を継続的に実施し、児童生徒と保護者の安全・安心を確保できたと評価する。

事業名	教育委員会運営事業
担当課	教育総務課

[事業概要]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置された教育委員会を運営し、教育行政を合議し執行する。

[目的]

対象： 市民、教育行政
(何を・誰を)

意図： 教育委員会の会議を開催し、教育に関する様々な施策を検討、決定
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) することで本市教育行政の充実と向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,976
財源	
一般財源	1,976

[事務事業の活動実績]

1. 教育委員会の構成 5名（教育長、教育委員4名）

2. 教育委員会開催状況（開催日、議案等の内容）

会議名	期 日	出席者数	議案等の内容					合 計
			人 事	施 策	条例規則	予算決算	その他	
臨時会	27. 4. 1	5	1					1
定例会	27. 4. 23	5	5			1	11	17
定例会	27. 5. 25	5			1	2	9	12
定例会	27. 6. 29	5	1	1	3		8	13
定例会	27. 7. 23	5	1	2		1	4	8
臨時会	27. 7. 29	5		1				1
定例会	27. 8. 24	5			2	2	6	10
定例会	27. 9. 29	5		1			13	14
定例会	27. 10. 23	5			3		7	10
定例会	27. 11. 18	5			1	2	3	6
定例会	27. 12. 16	5					5	5
定例会	28. 1. 27	4		2			5	7
定例会	28. 2. 24	4	1		3	2	3	9
臨時会	28. 3. 4	5	1	1				2
定例会	28. 3. 28	5	3		2	1	3	9
合計	15回		13	8	15	11	77	124

3. 学校訪問実施状況

小中学校、幼稚園、保育所全施設を訪問し、学校経営及び教育活動概要、学校課題等の現状把握と要望の聞き取りを行ない、教育活動の支援に努めた。

期 日	出席者数	訪 問 先
27. 6. 4	5	和田小学校、和田幼稚園
27. 6. 17	5	本宮小学校
27. 6. 24	4	岩根小学校、岩根幼稚園
27. 6. 25	5	白岩小学校、白岩幼稚園
27. 9. 9	4	本宮第二中学校
27. 10. 2	5	五百川小学校、五百川幼保総合施設
27. 10. 8	5	糠沢小学校、糠沢幼稚園
27. 11. 6	4	白沢保育所、白沢中学校
27. 11. 9	3	第1保育所、第3保育所、本宮まゆみ小学校
27. 11. 12	4	第2保育所、本宮第一中学校

4. 視察研修の実施

東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加し、他市町村教育委員等との交流及び情報交換を行った。

研修月日：平成27年7月9日（木）～10日（金）

研修会名：平成27年度東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会

研修場所：青森市（ホテル青森）

[事業の成果]

教育委員会定例会等の会議、保育所・幼稚園・小中学校への訪問事業、各種研修会への参加など、教育事情の把握や改善に努めた。また、教育委員会の会議公開及び会議録を市ホームページへ公開することにより、教育委員会の透明化を図った。

特に学校等訪問においては、教職員との分科会形式による懇談会を実施するなど、現場の声を聞き取り、教育活動の支援及び教育環境の整備に努めた。

また、視察研修においては、今後の教育委員会制度等の研修と、他市町村教育委員等との情報交換を行い、今後の本市における教育行政推進のための参考とした。

[課題・改善点]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月1日から施行され、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」が設置され、第一義的責任者が明確にされるとともに、市長・教育長・教育委員が構成メンバーとなる「総合教育会議」が設置されるなど、教育委員会の組織・体制等が大きく変わったため、適切な対応が求められる。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律により、教育行政の責任体制の明確化が図られたことや市長による総合教育会議が設置されたことで、教育行政における諸課題に適切に取り組むことができた。

また、学校訪問の実施により、市内小中学校・幼稚園・保育所の現状を把握することは、教育行政の充実と向上を図るうえで、有意義なものであった。

[教育長又は教育部長評価]

新教育委員会制度へスムーズに移行できたこと、社会情勢の変化に対応した教育行政を推進できたことを評価する。